



WebReport 2.0

多次元分析ガイド

■ ごあいさつ

このたびは弊社製品 WebReport2.0 をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本製品は、基幹系や情報系のデータベースにある様々なデータを Web ブラウザーから簡単に照会できる汎用検索ツールです。

本書は、多次元分析機能について記載しております。ご使用の際にお読みください。

なお、表示画面などは操作の一例として掲載しているものです。お客様のご使用環境によっては、画面に表示される内容が異なる場合がありますので、ご了承ください。

本書に記載されている機能は、「WebReport2.0」をご購入のお客様のみご使用いただけます。

「WebReport2.0 Express」をご使用のお客様は、別途ライセンスをご購入いただく必要があります。

■ 著作権／ご注意

- 本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複製転載することを禁じます。
- 本書に掲載の内容および製品の仕様などは、予告なく変更されることがあります。

本書の内容は万全を期して作成しておりますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれ、乱丁、落丁などお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

■ 本書の表記方法について

 注意	ハードウェアやソフトウェアの損害やエラーの発生を防止するために、必ず守っていただきたい情報を記載しています。
	特定のテーマに関する補足情報を記載しています。
メニュー、アイコン、ボタン、ウィンドウ、タブ	[] で囲んで表記します。 (例) [OK] ボタンをクリックします。
キーボード上のキー	<> で囲んで表記します。 (例) キーボードの<Tab>キーを押します。
参照先	章、節、項は『』、見出しは「」で囲んで表記します。 (例) 『1章1 多次元分析とは』を参照してください。

目次

■	ごあいさつ.....	i
■	著作権／ご注意.....	i
■	本書の表記方法について.....	i
	目次.....	ii

第 1 章 1

多次元分析の概要.....	1
1 多次元分析とは.....	2
2 キューブ作成の概要.....	3
3 多次元分析の実行.....	13

第 2 章 15

管理者編.....	15
1 キューブ管理の概要.....	16
2 キューブサーバ定義の管理.....	17
2.1 キューブサーバ定義一覧の表示.....	17
2.2 キューブサーバ定義の登録.....	18
2.3 キューブサーバ定義の変更.....	19
2.4 キューブサーバ定義の削除.....	20
3 キューブ定義の管理.....	22
3.1 キューブ定義の表示.....	22
3.2 キューブメニュー・フォルダーの登録.....	23
3.3 キューブ定義の変更.....	26
3.4 キューブ定義の削除.....	26

第 3 章 27

設計者編.....	27
1 キューブ作成の概要.....	28

2	次元設定の詳細.....	30
2.1	次元の設定.....	30
2.2	レベルの設定.....	33
2.3	数値次元の設定.....	35
2.4	検索条件の設定.....	37
2.5	多次元専用関数について.....	37
2.6	キューブレイアウトの編集.....	38
2.7	キューブ間リンクの設定.....	43
2.8	ドリルスルーの設定.....	48
3	キューブ作成の実行.....	51
3.1	キューブ作成ウィザード.....	51
3.2	実行スケジュールの確認.....	54

第 4 章 56

分析編	56
1	多次元分析の実行.....	57
2	キューブの操作.....	58
2.1	ドリルダウン.....	58
2.2	ドリルアップ.....	59
2.3	スライス&ダイス.....	60
2.4	メンバーの入れ替え.....	64
3	その他の機能.....	65
3.1	分析保存.....	65
3.2	エクスポート.....	67
3.3	グラフの表示.....	69
3.4	多次元オプション.....	71

第 1 章

多次元分析の概要

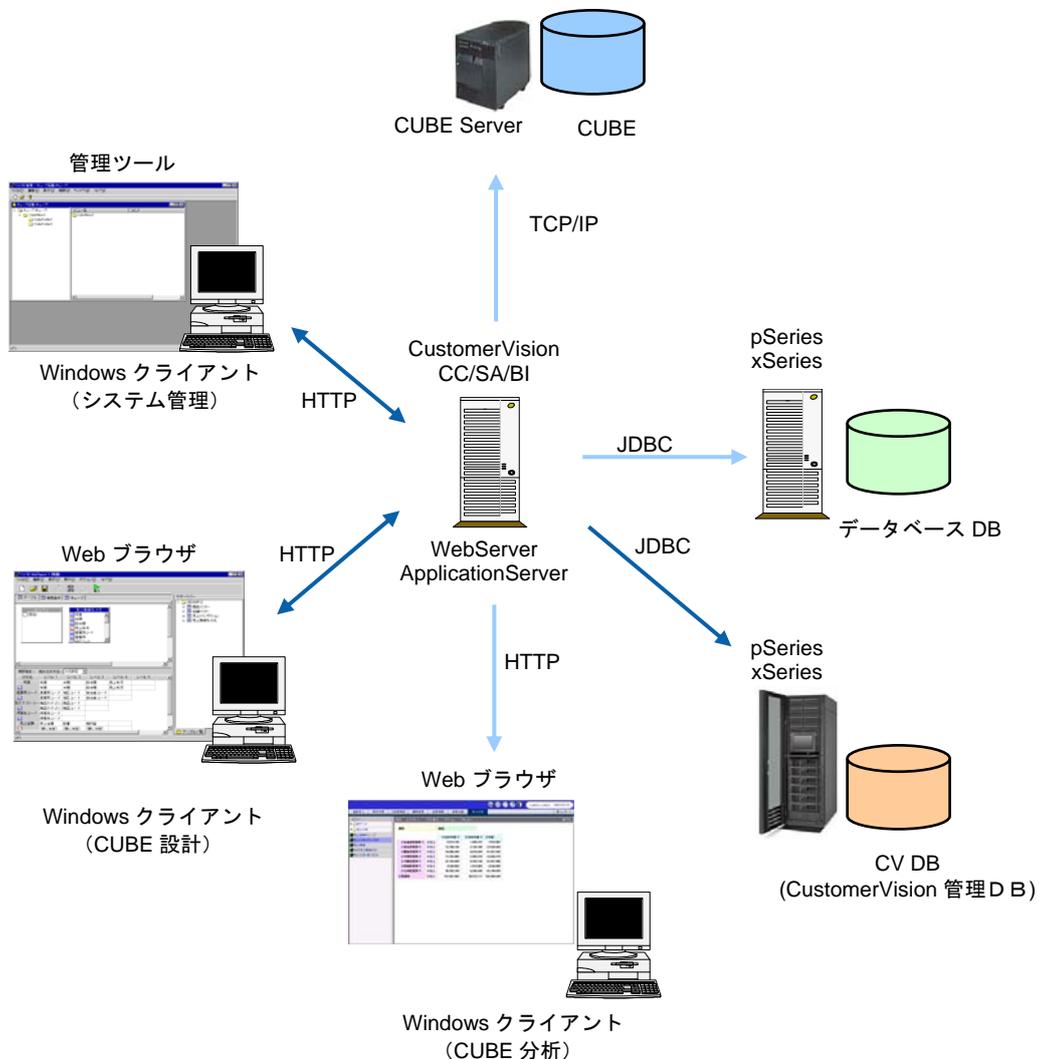
目次

1	多次元分析とは.....	2
2	キューブ作成の概要.....	3
3	多次元分析の実行	13

1 多次元分析とは

多次元分析とは、データベースに集められたデータについてさまざまな角度からデータを眺め、分析することをいいます。例えば、売上のデータを商品ごと、営業所ごと、顧客ごと、売上年月といった切り口で分類し、これらの組み合わせによるクロス集計により分析します。

本製品の多次元分析では、分析対象データをあらかじめ多次元データベースに格納し、クライアントからの要求に応じて多次元データベースからデータを切り出して送出する、MOLAP と呼ばれるシステム形態をとります。本製品で多次元分析を行うためには、多次元データベース（キューブ）を管理する、多次元データベースサーバ（CUBE Server）が必要となります。



システム構成

2 キューブ作成の概要

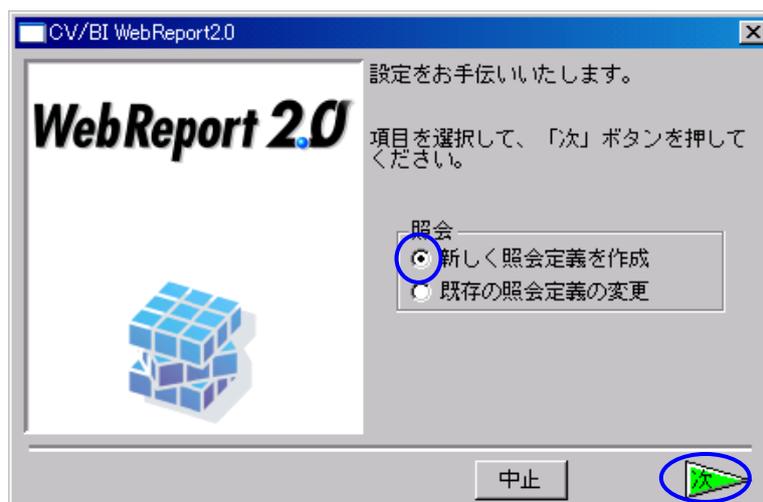
本製品で多次元分析を行うには、あらかじめキューブの設計を行い、データベースからデータロードをし、キューブを作成しておく必要があります。キューブの作成は設計者が定義設計ツールから行います。

以下にキューブ作成の手順を示します。

1. 定義設計ウィザードを起動します。



2. [新しく照会定義を作成]を選択し、[次]ボタンをクリックします。

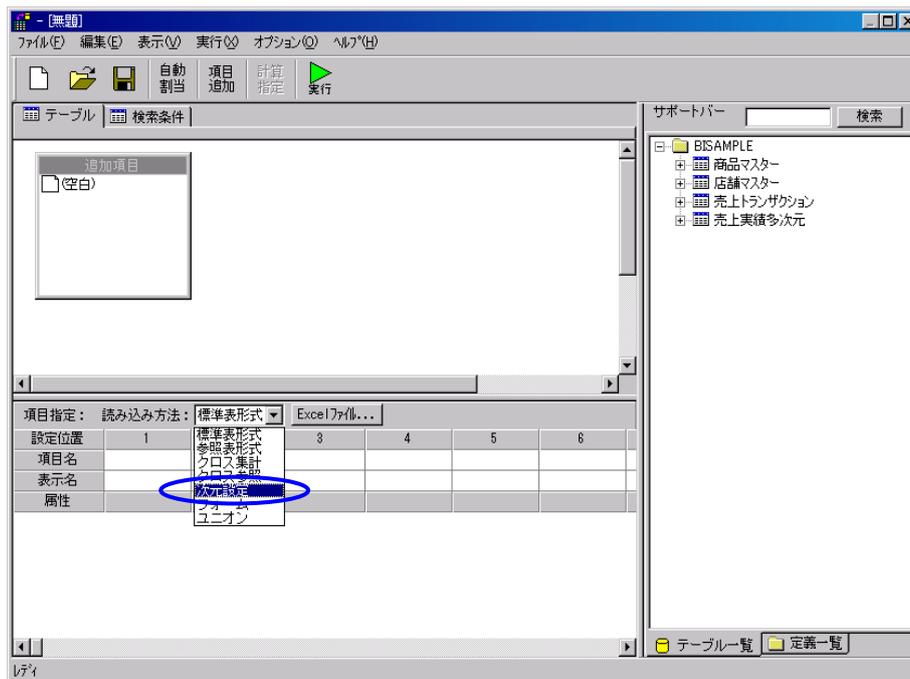


3. [▼]をクリックして多次元分析で使用するデータベースを選択し、[次]ボタンをクリックします。



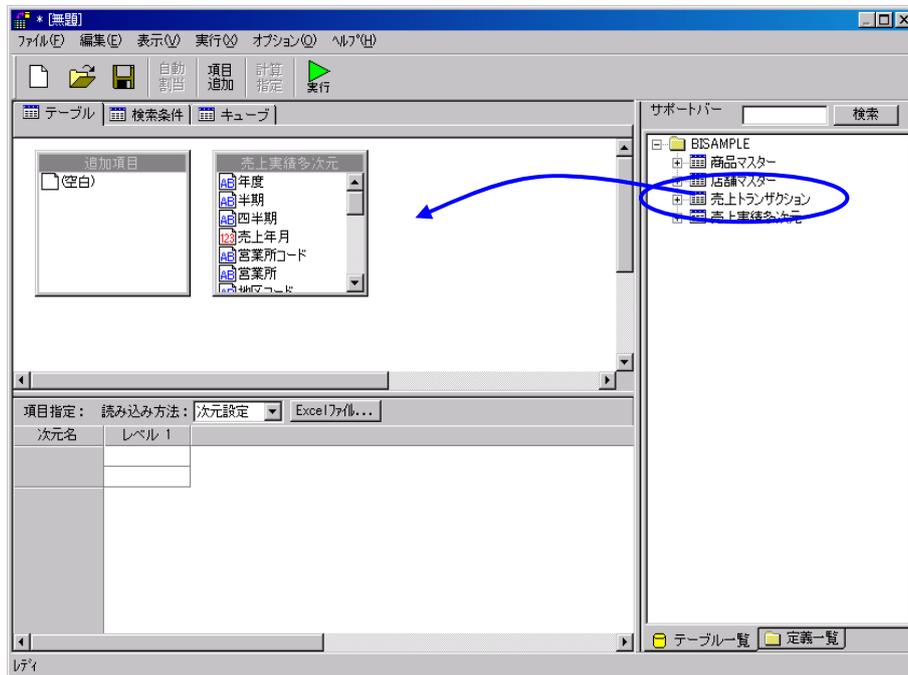
4. 多次元分析に使用するテーブルを選択します。

(ア) [項目指定域]で[読み込み方法]の[▼]をクリックし、[次元設定]を選択します。



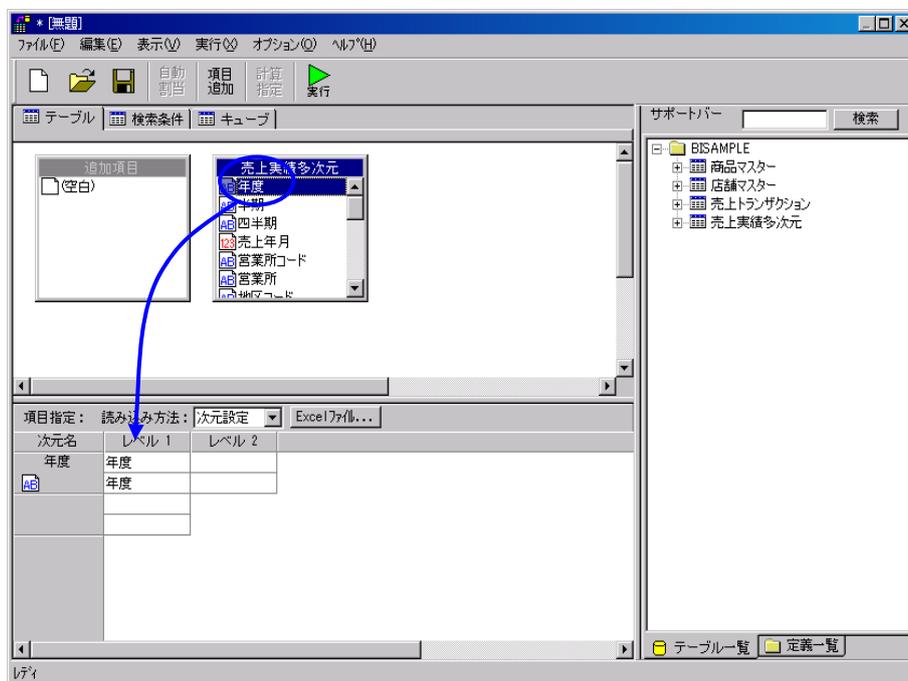
読み込み方法の指定

- (イ) [サポートバー]で分析に使用したいテーブルを選択し、[テーブル指定域]にドラッグ&ドロップします。テーブルが追加されます。



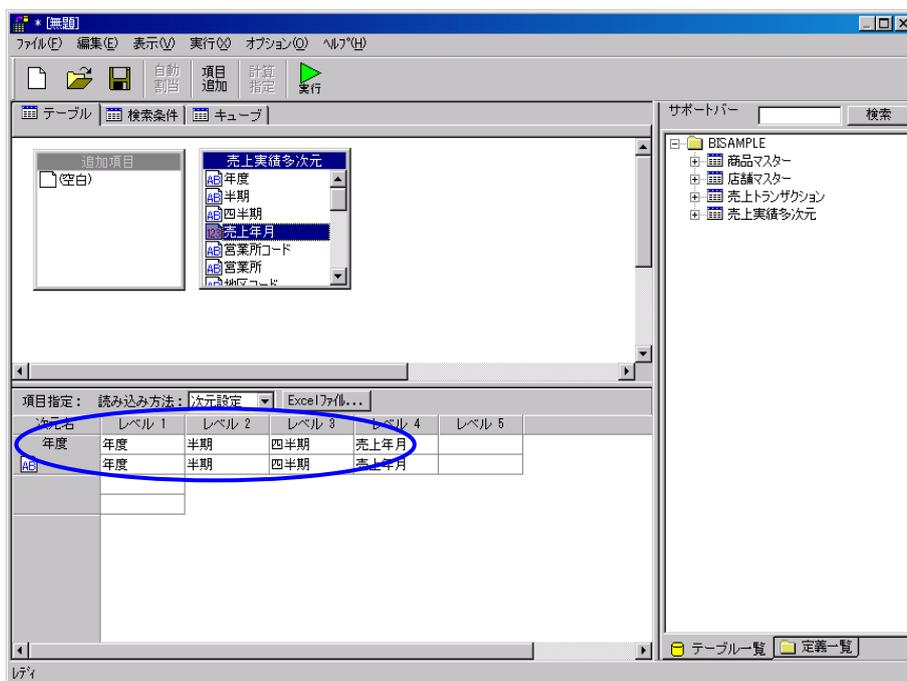
5. 分析次元を設定します。

- (ア) [年度] 項目をドラッグし、項目指定域のセルにドロップします。

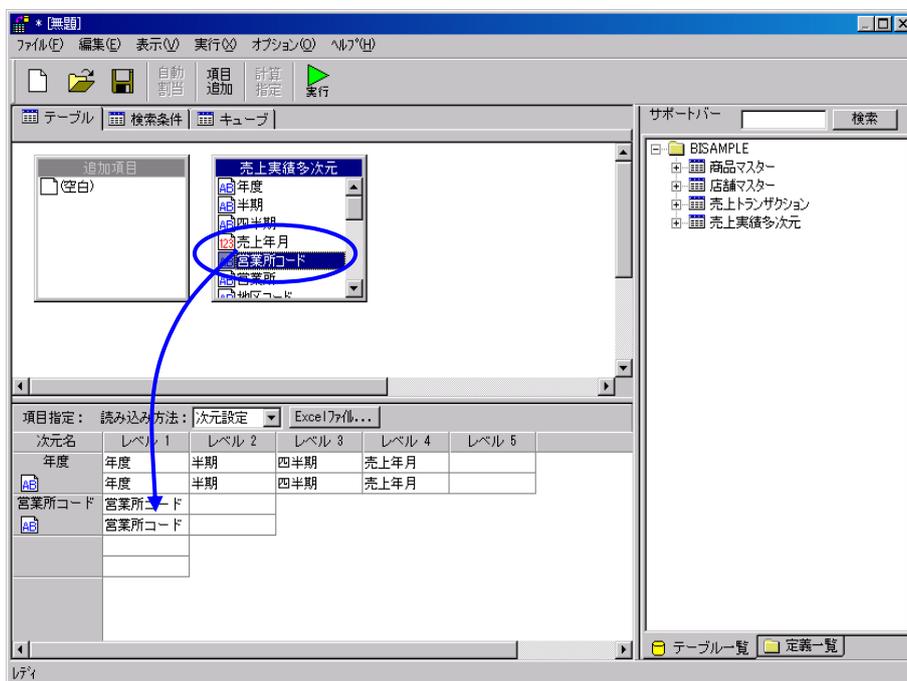


年度次元が作成され、[年度] 項目が年度次元のレベル 1 のキー項目および表示名項目に設定されます。また、レベル 2 を入力するセルと、次の次元を入力するセルが表示されます。

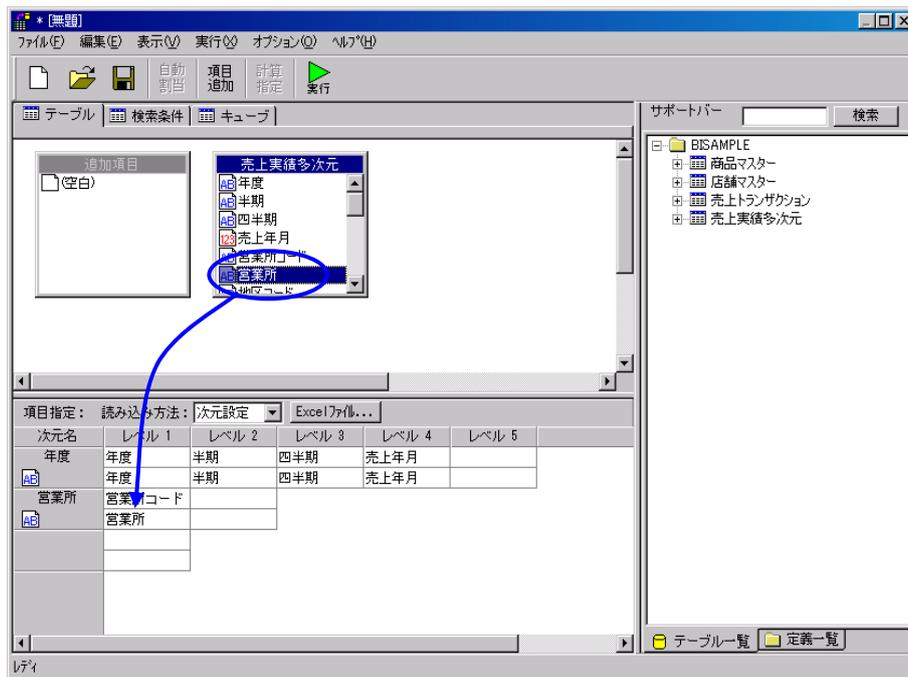
(イ) 同様に、レベル2に半期、レベル3に四半期、レベル4に売上年月を設定します。



(ウ) 次に営業所次元を作成します。[営業所コード]項目をドラッグし、年度の下の次元のレベル1にドロップします。

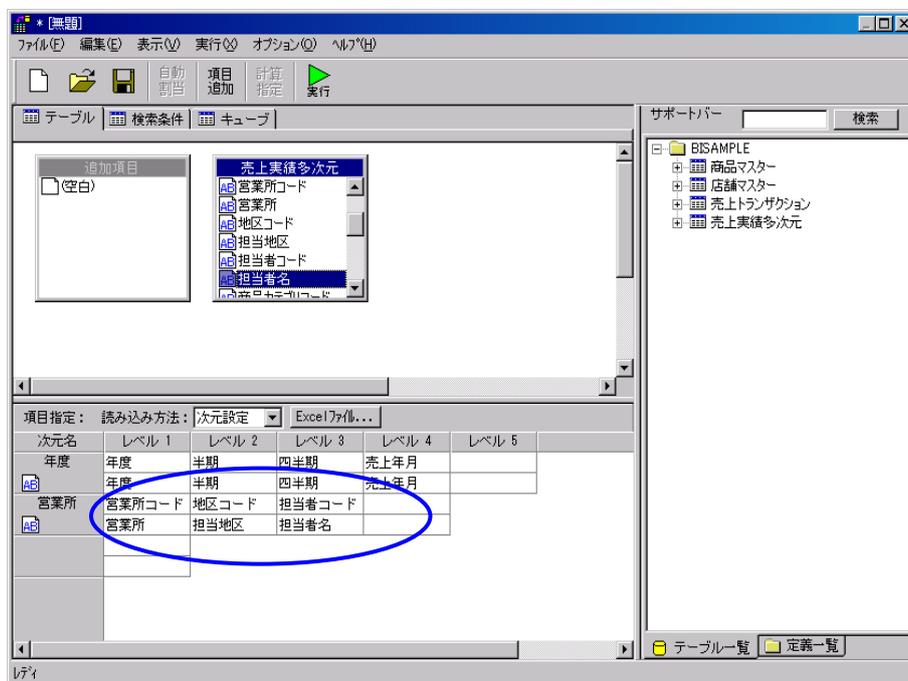


(エ) 表示名に用いられる「営業所」項目をその下のセルに設定します。

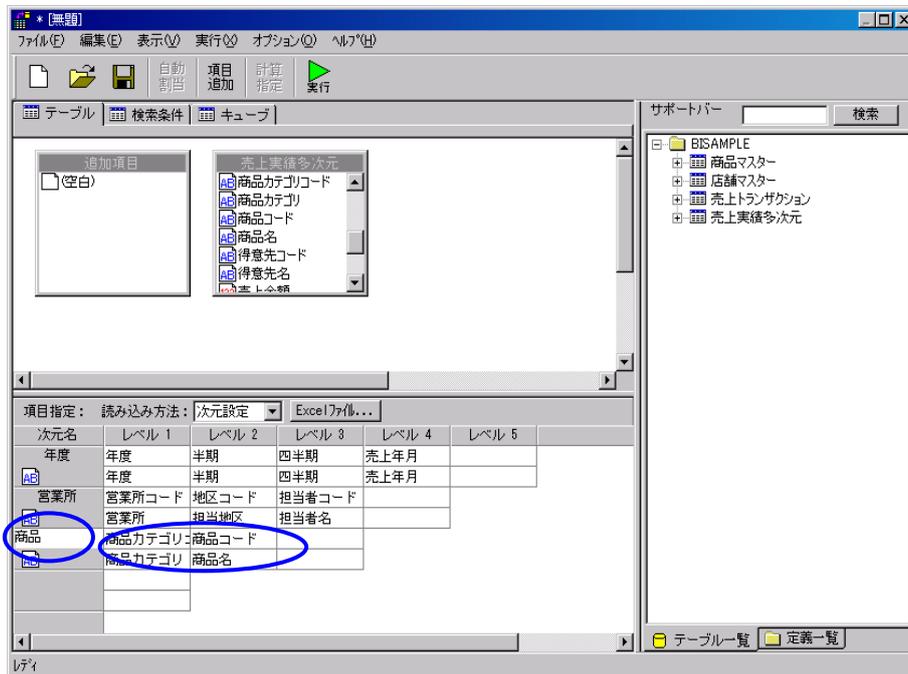


次元名が「営業所」に変わります。

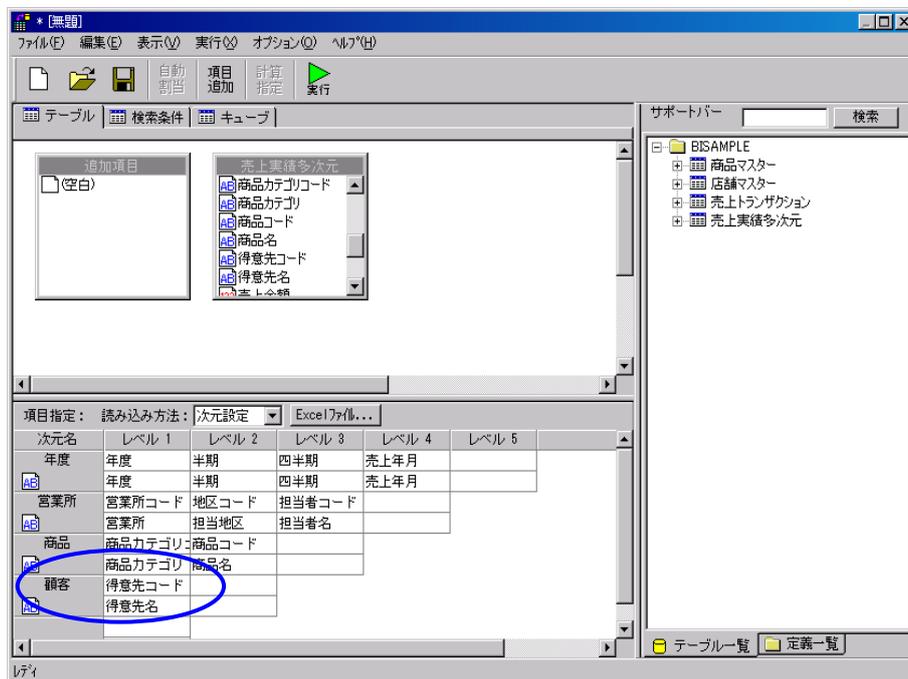
(オ) 同様に、レベル 2 に地区コードと担当地区、レベル 3 に担当者コードと担当者名を設定します。



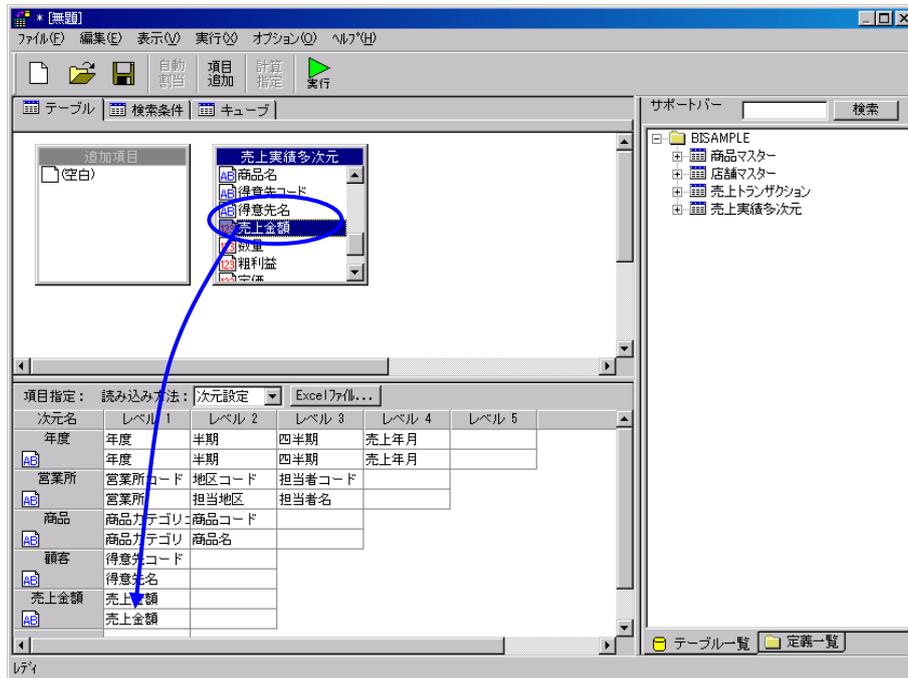
- (カ) 次に商品次元を作成します。レベル1に商品カテゴリコードと商品カテゴリ、レベル2に商品コードと商品名を設定します。次元名の「商品カテゴリ」の部分をクリックして「商品」に変更します。



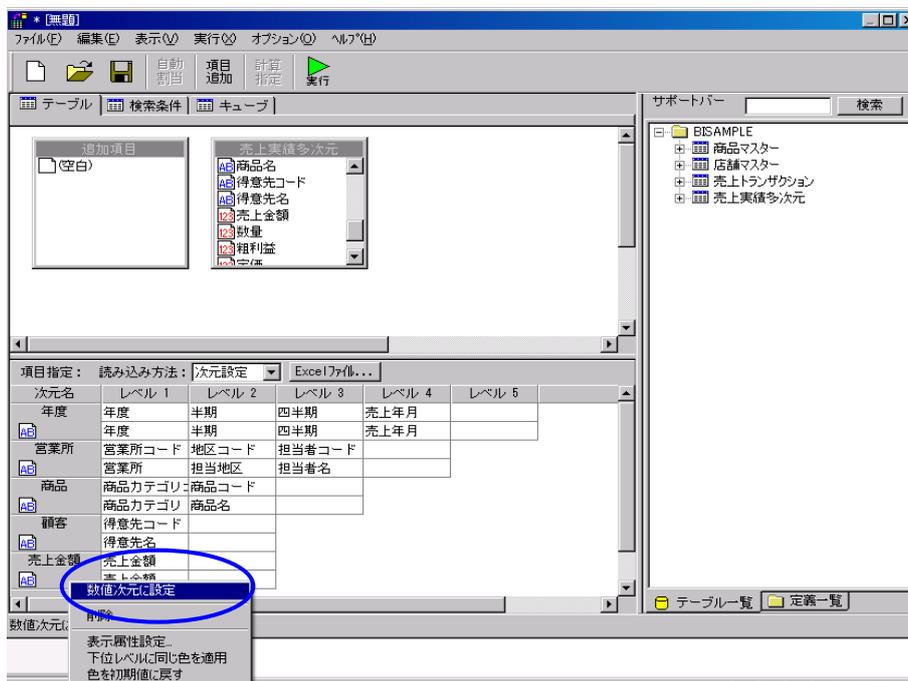
- (キ) 同様に、顧客次元を作成します。



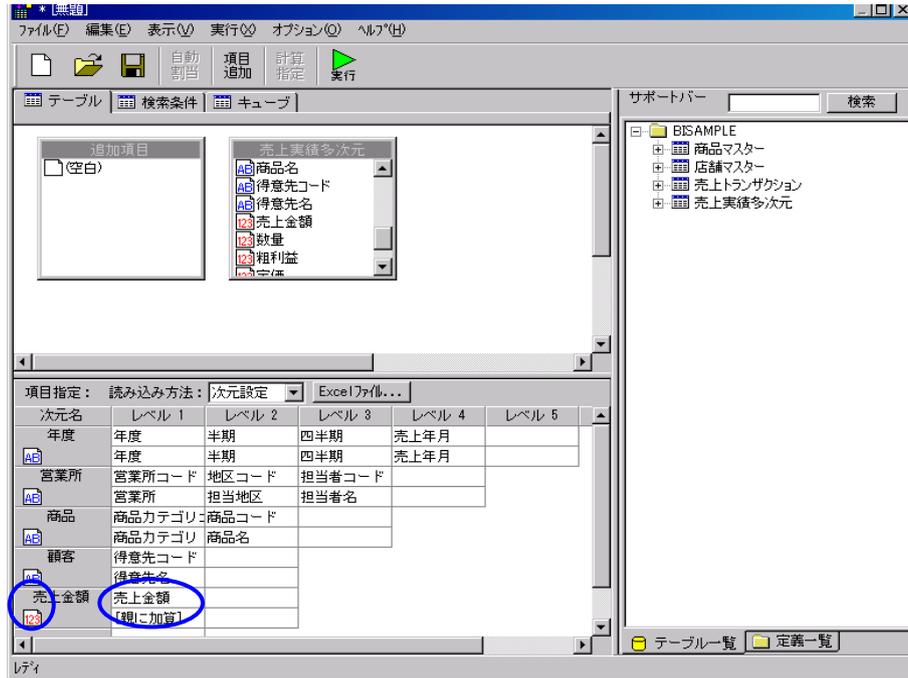
- (ク) これまで設定してきた分析次元の項目をキーとして集計される、数値次元項目を設定します。[売上金額]項目をドラッグし、新しい次元のレベル1に設定します。



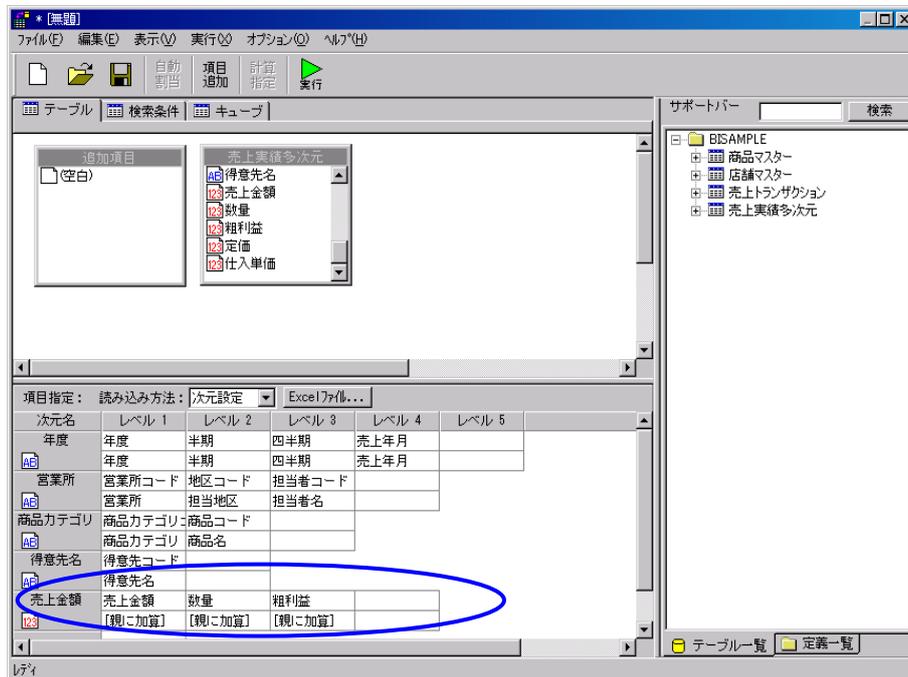
- (ケ) 売上金額次元の次元名を右クリックします。ポップアップメニューから、[数値次元に設定]を選択します。



次元名左下のアイコンが数値項目のアイコンに変わり、表示名項目の部分が「親に加算」に変わります。



(コ) 他の集計項目として、「数量」と「粗利益」を設定し、次元名を「売上」に変更します。



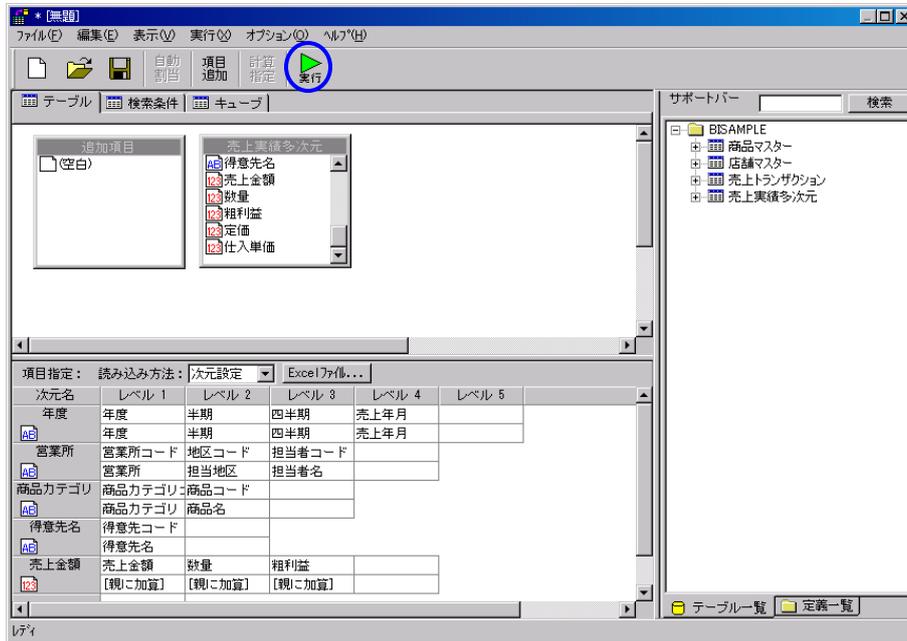
以上で次元設定は完了です。

次元設定の詳細については、『第 3 章 設計者編』を参照して下さい。

6. 次元設定の後に「キューブの作成」を実行します。

この操作により、実際にデータベースから多次元データベースにデータが読み込まれます。

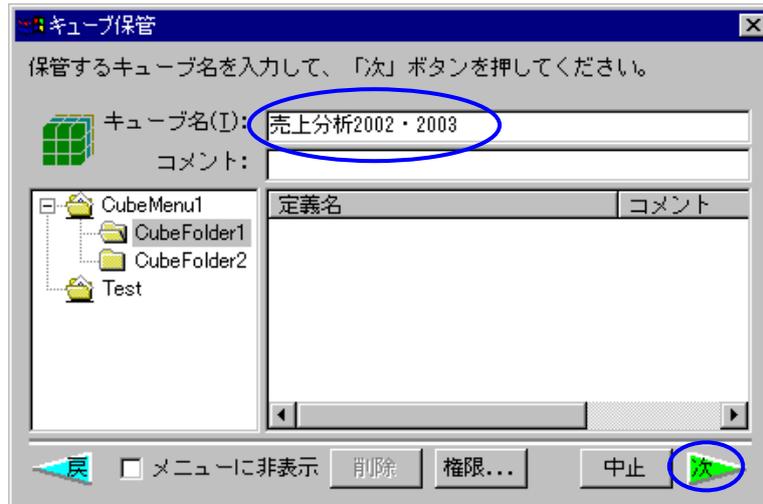
(ア) [実行] ボタンをクリックします。



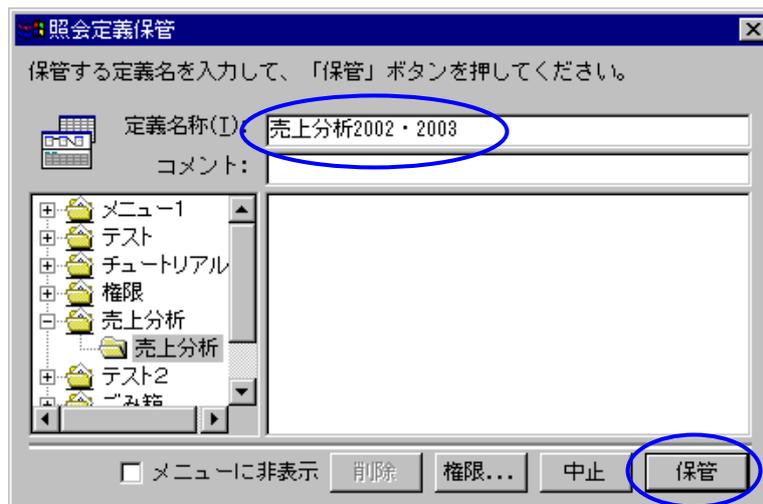
(イ) [多次元分析実行の設定] ウィザードが表示されます。最初のページでキューブサーバを選択し、[次] ボタンをクリックします。



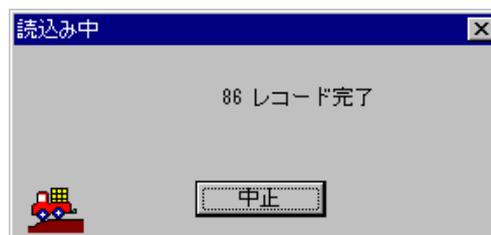
- (ウ) 新規作成するキューブにキューブ名を設定します。キューブ名を入力して [次] ボタンをクリックします。



- (エ) 照会定義を保管します。ここで設定した定義名称が、Web 照会画面のメニューに表示されます。[保管] ボタンをクリックします。



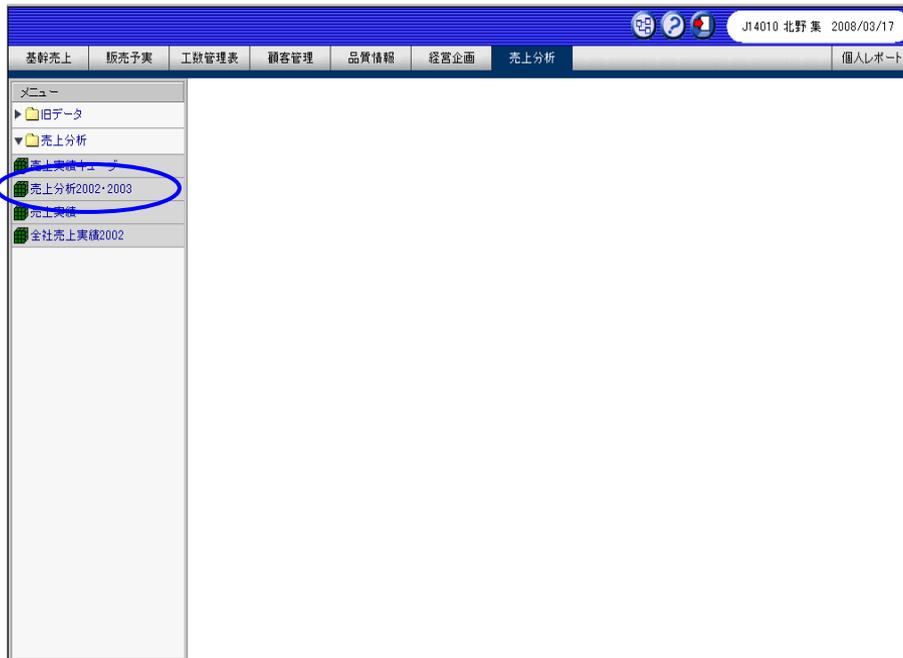
- (オ) データの読み込みが開始されます。データ読み込みの進捗状況を表すダイアログが表示され、しばらくするとキューブの作成が完了します。



以上で設定およびキューブの作成は完了です。キューブの作成が完了したら、メニューから [ファイル] → [閉じる] を選択して終了します。

3 多次元分析の実行

多次元分析を実行するには、Web 照会画面のメニューから多次元分析定義を選択します。



Web 照会画面

多次元で集計された結果が表示されます。



多次元分析画面

多次元分析では、次元階層項目のドリルダウン・ドリルアップ、スライス&ダイスなどの操作により、分析する軸となる次元を入れ替え、データの見方を変更することが可能です。

分析操作の詳細については、『第4章 分析者編』を参照して下さい。

第 2 章

管理者編

目次

1	キューブ管理の概要.....	16
2	キューブサーバ定義の管理.....	17
2.1	キューブサーバ定義一覧の表示.....	17
2.2	キューブサーバ定義の登録.....	18
2.3	キューブサーバ定義の変更.....	19
2.4	キューブサーバ定義の削除.....	20
3	キューブ定義の管理.....	22
3.1	キューブ定義の表示.....	22
3.2	キューブメニュー・フォルダーの登録.....	23
3.3	キューブ定義の変更.....	26
3.4	キューブ定義の削除.....	26

1 キューブ管理の概要

システム管理者は、多次元分析に使用されるキューブサーバの管理、キューブサーバの接続情報の定義や、キューブ定義の管理、および権限の管理を行います。管理ツールを使用して、以下の定義を作成・管理します。

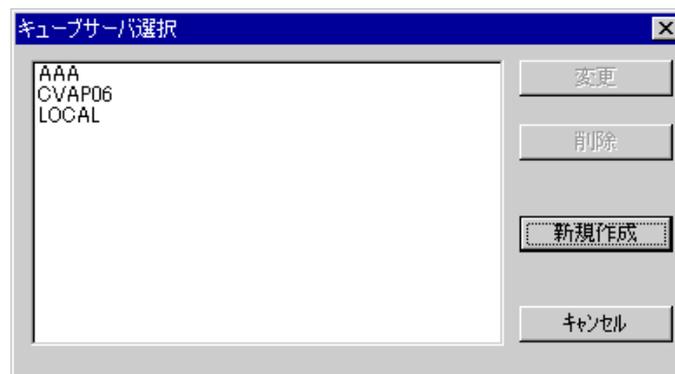
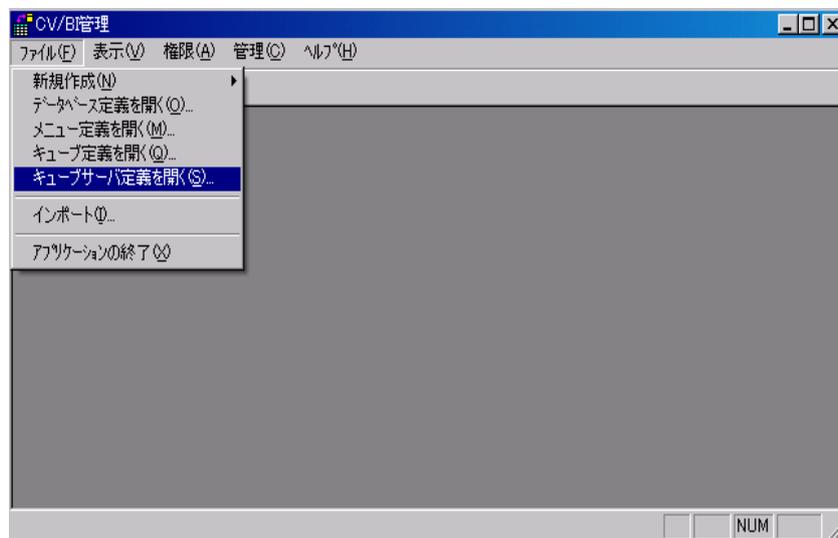
- キューブサーバ定義の管理
キューブサーバの接続情報（ホスト名/IP アドレスとポート番号）を作成・管理します。
- キューブ定義の管理
キューブ定義（キューブの名称や、キューブを保持するキューブサーバ情報）の管理、キューブ定義を分類・整理するためのフォルダー（キューブメニュー・キューブフォルダー）の管理をします。
- 権限の管理
多次元分析機能に関する権限を管理します。

2 キューブサーバ定義の管理

ここでは、キューブサーバ定義の概要と作成方法について説明します。

2.1 キューブサーバ定義一覧の表示

登録されているキューブサーバ定義は、キューブサーバ定義選択画面で確認することができます。キューブサーバ定義選択画面では、キューブサーバ定義の新規作成や、変更／削除ができます。キューブサーバ定義選択画面を表示するには、CV/BI 管理ツールのメニューから [ファイル] - [キューブサーバ定義を開く] を選択します。



キューブサーバ定義選択画面

変更：

選択したキューブサーバ定義の内容を変更します。

削除：

選択したキューブサーバ定義を削除します。

新規作成：

キューブサーバ定義を新規に登録します。

2.2 キューブサーバ定義の登録

- 1 キューブサーバ定義選択画面から、[新規作成] ボタンをクリックします。



キューブサーバ定義選択画面

- 2 キューブサーバの接続情報を入力します。



キューブサーバ定義ダイアログ

サーバ名：

必須入力です。キューブサーバ定義の名称を設定します。任意の名称を入力することができますが、キューブ定義の作成時にキューブ設計者がキューブサーバを選択する際にも使用されるので、わかりやすい名称にすることをお勧めします。既に存在している名前は付けることができません。（全角 25 文字 / 半角 50 文字以内）

ホスト名/IP アドレス :

必須入力です。キューブサービスを実行しているホストのホスト名または IP アドレスを設定します。

ポート :

必須入力です。キューブサービスが使用するポート番号を設定します。

コメント :

このキューブサーバ定義の補足説明を入力します。(全角 127 文字/半角 255 文字以内)

テスト接続ボタン :

キューブサーバにテスト接続します。サービスが実行されている必要があります。

権限ボタン :

このキューブサーバ定義を使用できるユーザの権限を設定します。

3 [OK] ボタンをクリックします。

キューブサーバ定義画面が閉じ、キューブサーバ定義が登録されます。

2.3 キューブサーバ定義の変更



Web 照会画面でキューブ分析定義を実行中にキューブサーバ定義を変更した場合、分析結果がエラーになることがあります。また、キューブ定義を作成中にキューブサーバ定義を変更した場合、キューブ定義が保存できなくなることがあります。ご注意ください。

1 キューブサーバ定義選択画面を表示します。



キューブサーバ定義選択画面

- キューブサーバ定義一覧から変更したいキューブサーバ定義を選択し、「変更」ボタンをクリックします。



- キューブサーバ定義画面が表示されます。キューブサーバ定義の内容を変更し、「OK」ボタンをクリックします。キューブサーバ定義画面が閉じ、キューブサーバ定義が変更されます。



キューブサーバ定義画面

2.4 キューブサーバ定義の削除



キューブサーバ定義を削除すると、関連するキューブ定義も削除されます。また、削除したキューブ定義を参照しているキューブ分析定義が実行できなくなります。ご注意ください。

- キューブサーバ定義選択画面を表示します。

- キューブサーバ定義一覧から削除したいキューブサーバ定義を選択し、[削除] ボタンをクリックします。



確認のダイアログが表示されます。

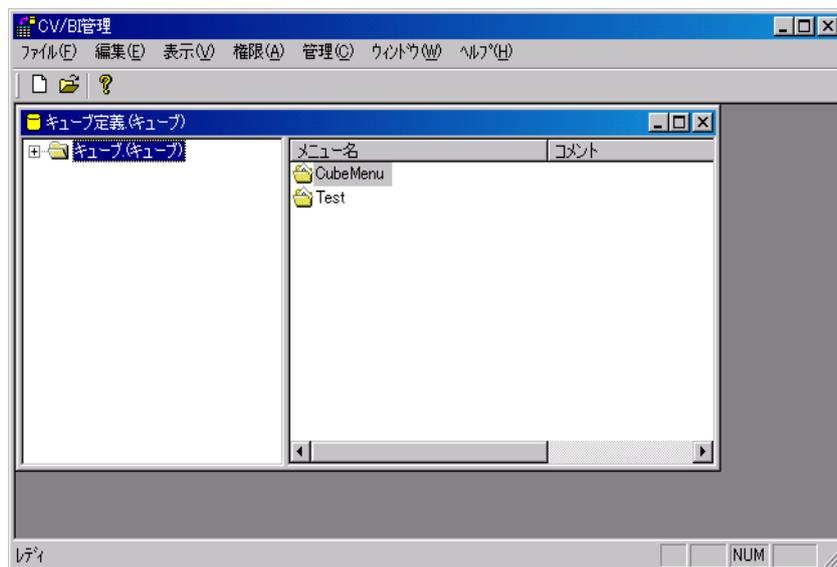
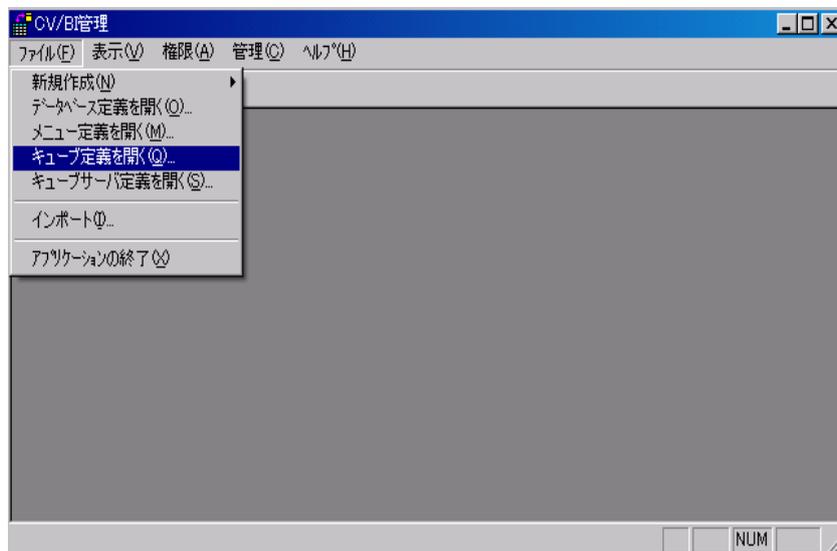
- [はい] ボタンをクリックします。キューブサーバ定義が削除されます。

3 キューブ定義の管理

ここでは、キューブ定義の管理について説明します。

3.1 キューブ定義の表示

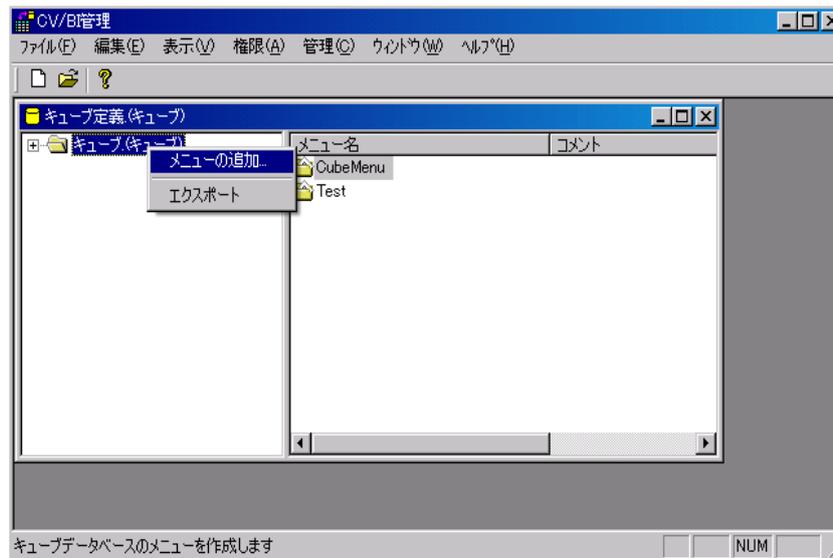
作成されたキューブは、キューブ定義一覧画面で確認することができます。キューブ定義一覧画面では、キューブ定義の変更／削除ができます。キューブ定義一覧画面を表示するには、CV/BI 管理ツールのメニューから [ファイル] - [キューブ定義を開く] を選択します。



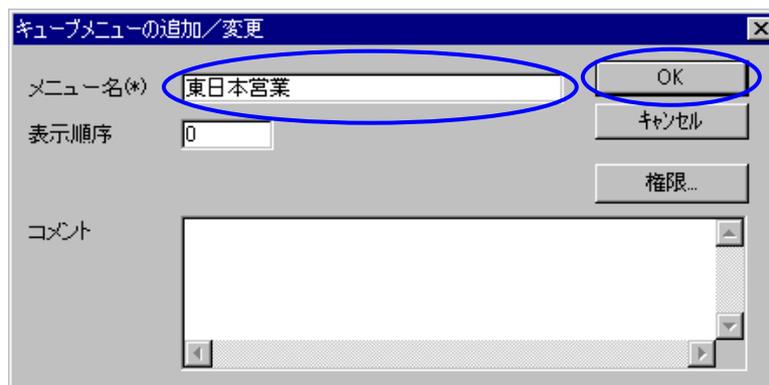
3.2 キューブメニュー・フォルダーの登録

キューブ定義をカテゴリ別に分類して管理するため、キューブ定義は「キューブメニュー」-「キューブフォルダー」という階層の下に保管されます。初めてキューブを作成する場合、作成の前にあらかじめキューブを保管するキューブメニュー・キューブフォルダーを作成する必要があります。

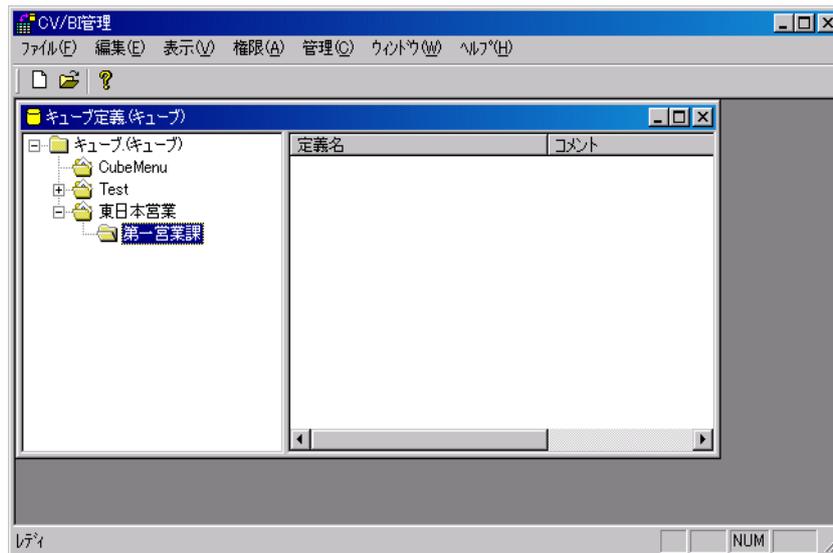
- 1 キューブメニューを登録するには、キューブ定義一覧画面の左側のツリーから、ルートフォルダー（「キューブ」と名付けられたフォルダー）を選択し、右クリックメニューから [メニューの追加] を選択します。



- 2 新規に作成するメニューの名称を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



3 キューブメニューが登録されます。



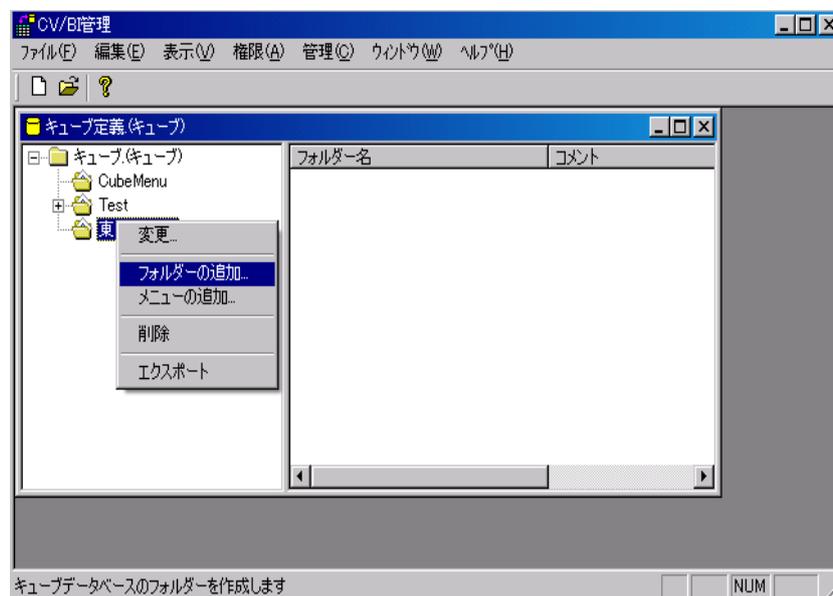
既存のキューブメニューの名称・権限を変更するには、キューブメニューを選択し、右クリックメニューから「変更」を選択します。

キューブメニューを削除するには、キューブメニューを選択し、右クリックメニューから「削除」を選択します。



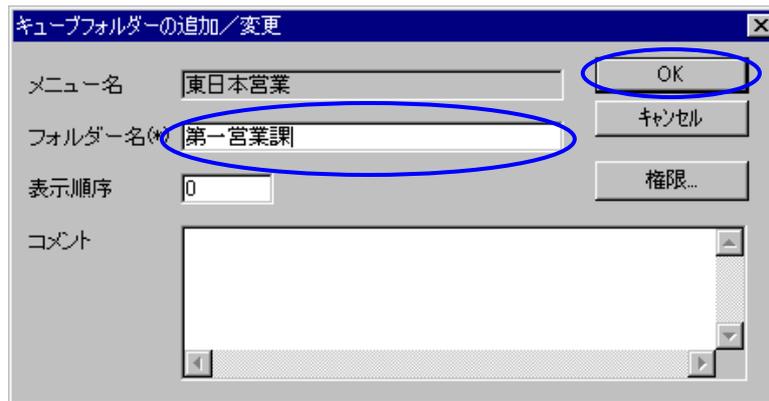
キューブメニューを削除すると、キューブメニューに含まれるキューブフォルダー・キューブ定義も全て削除されます。また、削除したキューブ定義を参照しているキューブ分析定義が実行できなくなります。ご注意ください。

1 キューブフォルダーを登録するには、キューブ定義一覧画面の左側のツリーから、キューブメニューを選択し、右クリックメニューから「フォルダーの追加」を選択します。

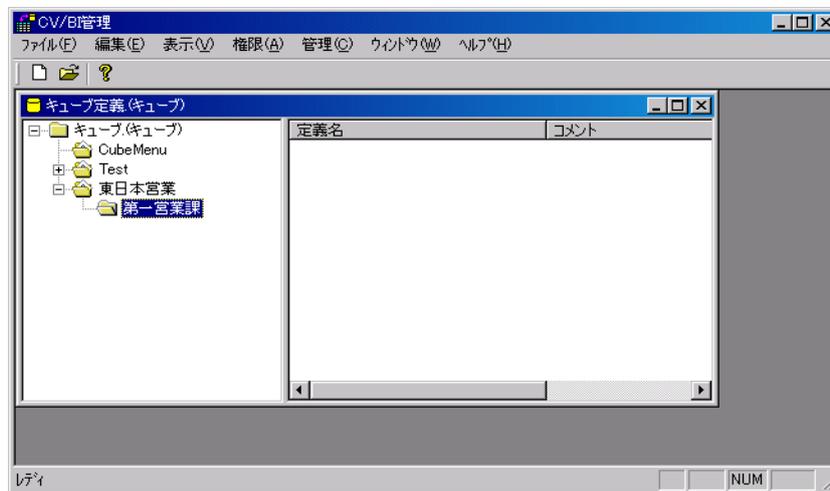


キューブデータベースのフォルダーを作成します

- 2 新規に作成するフォルダーの名称を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



- 3 キューブフォルダーが登録されます。



既存のキューブフォルダーの名称・権限を変更するには、キューブフォルダーを選択し、右クリックメニューから [変更] を選択します。

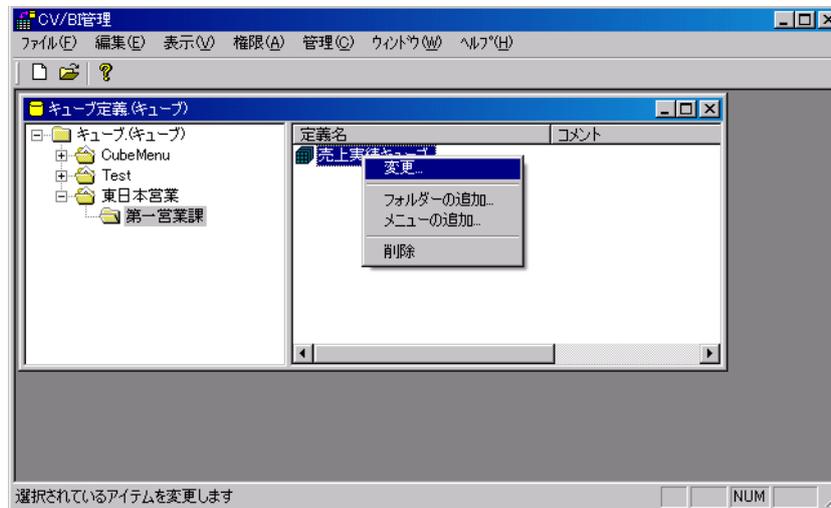
キューブフォルダーを削除するには、キューブフォルダーを選択し、右クリックメニューから [削除] を選択します。



キューブフォルダーを削除すると、キューブフォルダーに含まれるキューブ定義も全て削除されます。また、削除したキューブ定義を参照しているキューブ分析定義が実行できなくなります。ご注意ください。

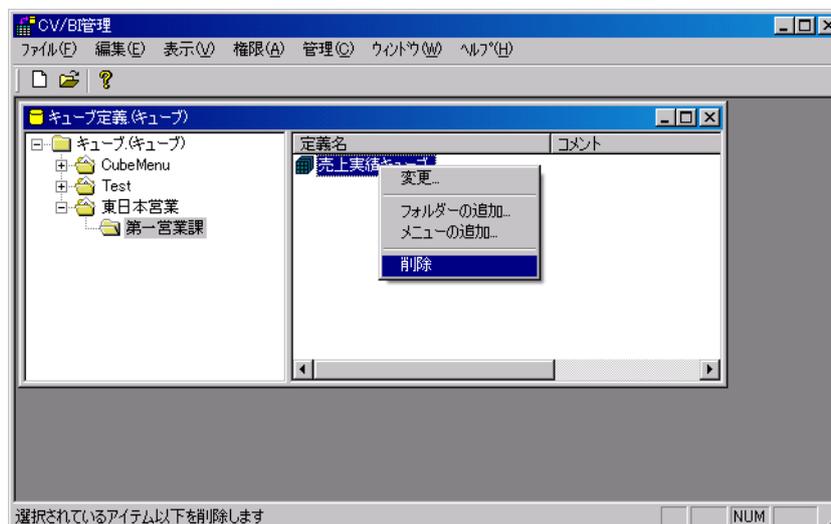
3.3 キューブ定義の変更

既存のキューブ定義の名称・権限を変更するには、対象キューブ定義を選択し、右クリックから「変更」メニューを選択します。



3.4 キューブ定義の削除

キューブ定義を削除するには、対象キューブ定義を選択し、右クリックから「削除」メニューを選択します。



削除したキューブを元に戻すことはできません。また、削除したキューブ定義を参照しているキューブ分析定義が実行できなくなります。ご注意ください。

第 3 章

設計者編

目次

1	キューブ作成の概要.....	28
2	次元設定の詳細.....	30
2.1	次元の設定.....	30
2.2	レベルの設定.....	33
2.3	数値次元の設定.....	35
2.4	検索条件の設定.....	37
2.5	多次元専用関数について.....	37
2.6	キューブレイアウトの編集.....	38
2.7	キューブ間リンクの設定.....	43
2.8	ドリルスルーの設定.....	48
3	キューブ作成の実行.....	51
3.1	キューブ作成ウィザード.....	51
3.2	実行スケジュールの確認.....	54

1 キューブ作成の概要

ここでは、キューブ作成の概要について説明します。

多次元分析を行うためには、まずどのような分析を行うか、方針を決定します。例えば、期間軸（年度→半年→四半期→月）、部門軸（営業所→担当地区→担当営業）、商品軸（商品分類→商品）の各次元の組み合わせによる売上数値（売上金額、数量、粗利益）の集計分析を行うといった具合に、どの軸に沿ってどの数値を分析するかを決定します。

分析次元（この場合、期間軸・部門軸・商品軸）は最大8次元まで、次元階層（年度→半年→四半期→月など）は最大16階層まで設定可能ですが、分析次元数や階層数はキューブ作成・分析のパフォーマンスに非常に大きな影響を与えます。パフォーマンスを考慮して、一つのキューブの分析次元は最大4次元程度、階層は最大5階層程度になるように設計して下さい。

分析次元および数値次元を決定したら、各次元階層の集計キーおよび集計項目に相当するデータベース項目を決めます。例えば、「期間軸次元は売上トランザクションの売上年月日、部門軸次元は部門マスターの項目、数値次元項目は売上トランザクションの値を使用する」ということを決定します。

データベース項目が決まったら、定義設定で実際にキューブの設計作業を行います。例では、次の図のようなテーブル結合と追加項目を定義します。



テーブル結合と追加項目

また、以下のように次元と階層を設定します。

次元名	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
年度	年度	半年	四半期	月	
商品カテゴリ	商品カテゴリ	商品コード			
営業所	営業所コード	地区コード	担当者コード		
売上金額	売上金額	数量	粗利益		
	[親に加算]	[親に加算]	[親に加算]		

次元設定

テーブル指定と追加項目の定義の方法は「標準表形式」と同様です。詳細は、『ユーザーズマニュアル 第3章 2 照会定義の作成』を参照して下さい。

テーブル指定と次元設定・検索条件の設定が終わったら、[実行] ボタンをクリックして実際にキューブを作成します。

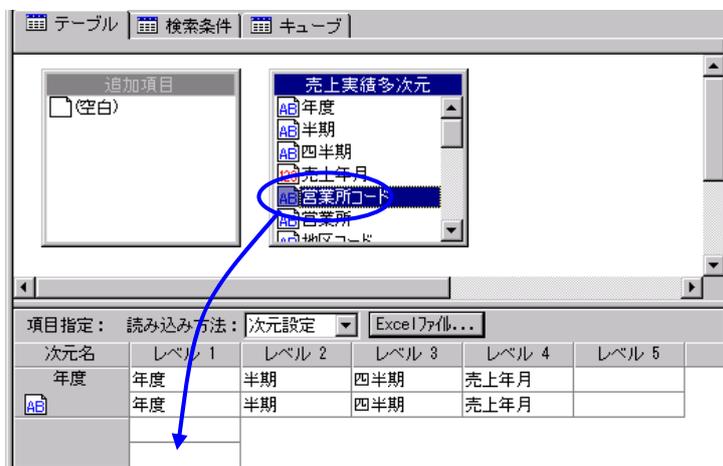
2 次元設定の詳細

この節では、次元設定の詳細について説明します。

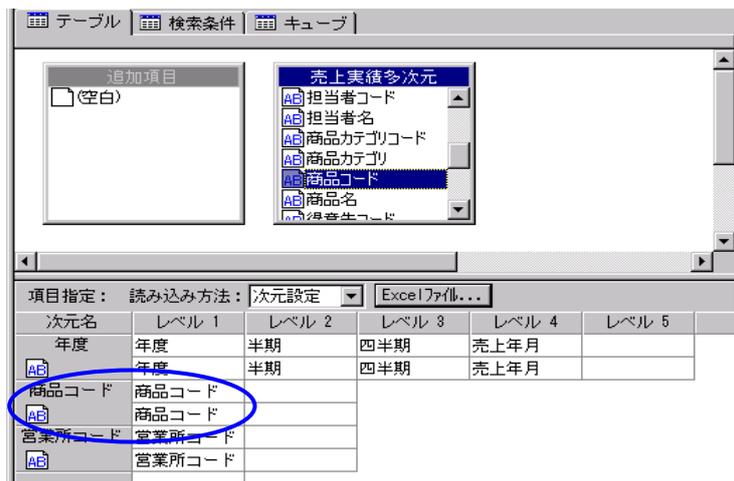
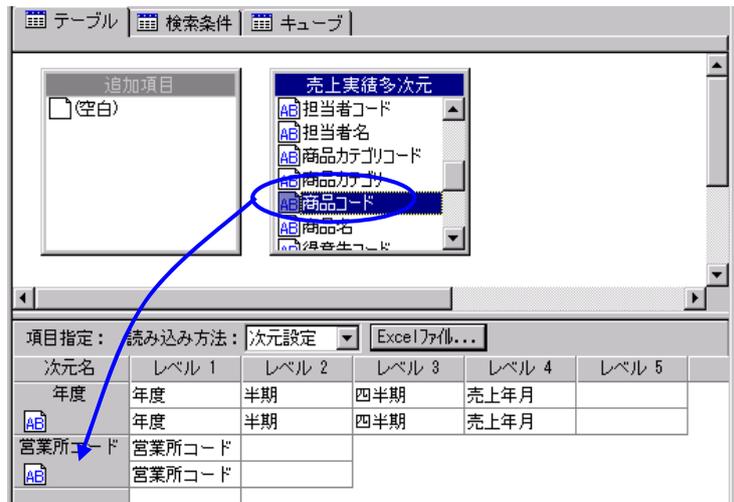
2.1 次元の設定

(1) 次元の追加

次元を追加するには、テーブル指定域から項目をドラッグし、セル指定域の新しい次元のレベル1または次元名部分にドロップします。



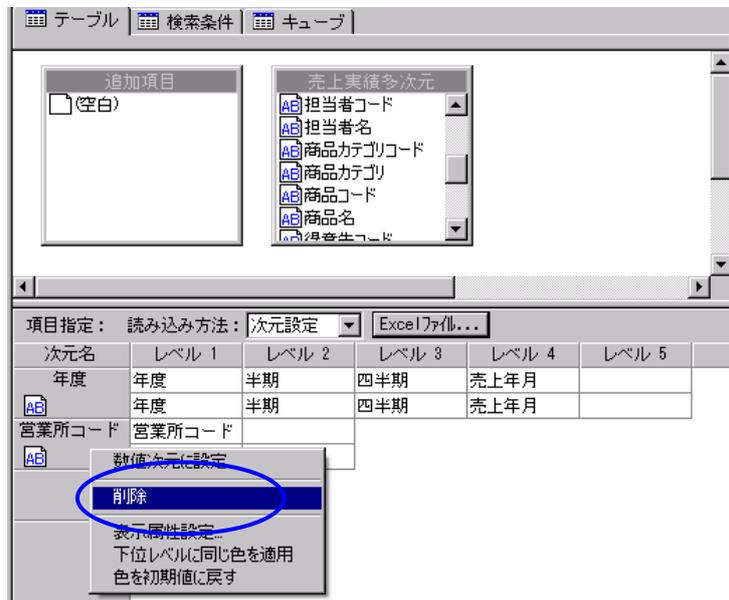
項目を他の次元の次元名の上にドロップすると、新しい次元が挿入されます。



また、ドラッグ&ドロップ操作で次元を入れ替えることができます。

(2) 次元の削除

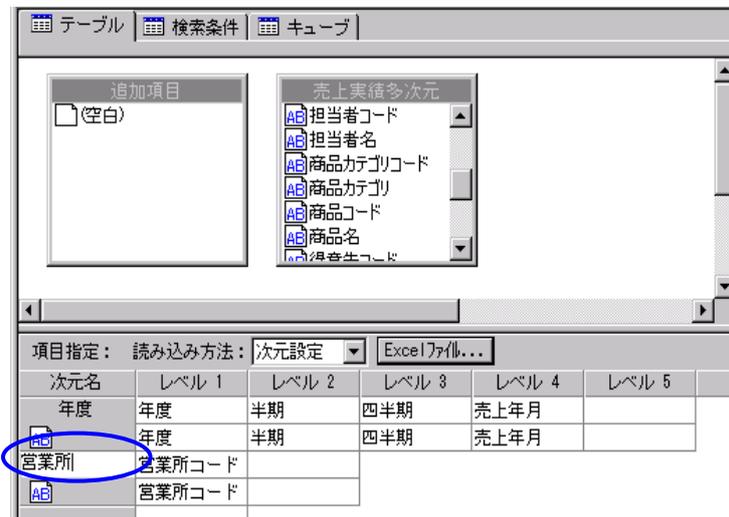
次元を削除するには、削除する次元の次元名付近を右クリックし、ポップアップメニューから「削除」を選択します。



次元を削除すると、その次元のレベルに設定した項目が全て削除されます。

(3) 次元名の変更

次元名を変更するには、次元名付近を左クリックし、次元名を編集します。

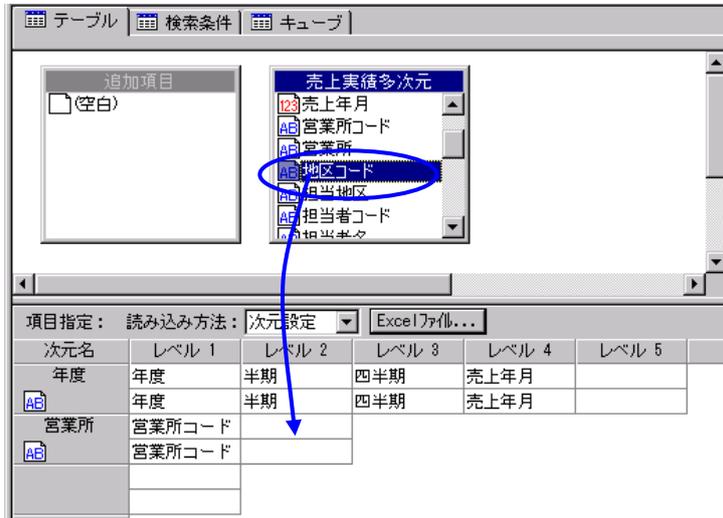


次元名を入力して [Enter] キーを押すと、次元名が変更されます。異なる次元に同じ次元名を設定することはできません。

2.2 レベルの設定

(1) レベルの追加

各分析次元に対し、階層的に集計を行うために集計キーの階層（レベル）を設定します。例えば、年度次元の場合、[年度] - [半期] - [四半期] - [売上年月] のような階層化を行い、各レベルで集計を行います。次元にレベルを追加するには、項目を新しいレベルにドロップします。

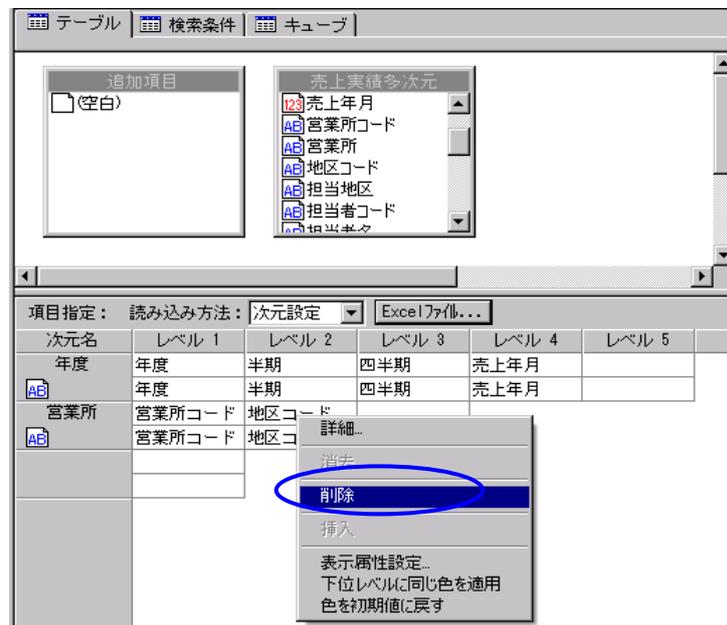


項目を他のレベルの上にドロップすると、新しいレベルが挿入されます。

また、同一次元に設定した項目間でドラッグ&ドロップを行うことで、項目を入れ替えることができます。

(2) レベルの削除

レベルを削除するには、削除するレベルを右クリックし、ポップアップメニューから「削除」を選択します。



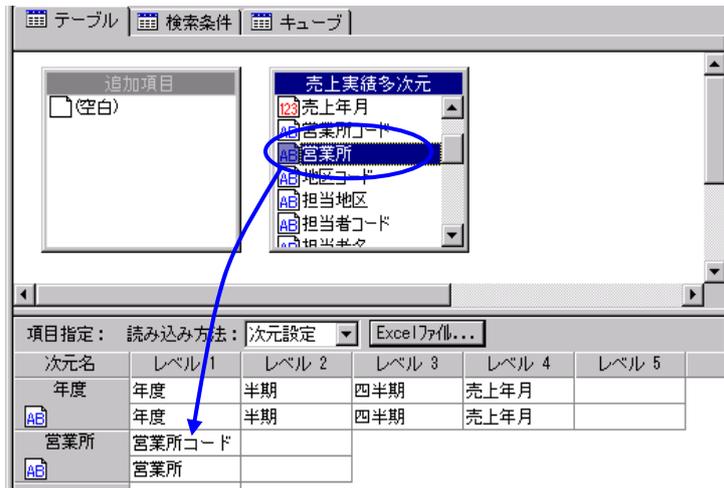
(3) レベル項目の変更

設定済みのレベル項目をクリックして、表示されたドロップダウンリストから項目を選択することで、レベル項目を変更することができます。



(4) 表示名項目の設定

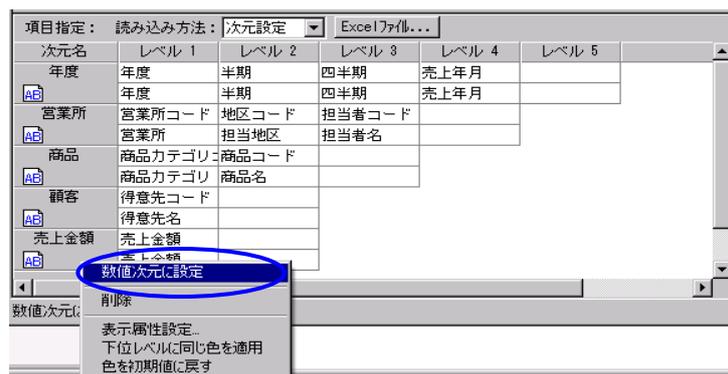
多次元集計に用いられる集計キー項目とは別に、表示に用いる項目を設定することができます。例えば営業所の場合、「営業所コード」といった一意のコードがあるのが一般的です。また、営業所コードには、対応する営業所名があるはずですが、営業所名は変更される場合があるため、集計キーには普通はコードの方を使用します。このように、集計キーと表示名に別の項目を使用するには、レベルの上の段に集計キー項目、下の段に表示名項目を設定します。表示名項目を設定するには、下の段に項目をドロップします。



2.3 数値次元の設定

(1) 数値次元の設定

次元を数値次元に設定するには、次元名を右クリックしてメニューから「数値次元に設定」を選択します。



次元名左下に表示されている次元アイコンが数値アイコンに変更されます。また、各レベル項目の下段のセルが「親に加算」に変わります。

次元名	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
年度	年度	半期	四半期	売上年月	
営業所	営業所コード	地区コード	担当者コード		
商品	商品カテゴリ	商品コード			
顧客	得意先コード				
売上金額	得意先名				
	売上金額				
	[親に加算]				

数値次元には、数値項目のみ設定可能です。

(2) 計算方法の指定

数値次元に設定した場合、下のセルは、「親に加算」と「再計算」の選択セルになります。

「親に加算」は、数値項目の値を全ての次元の親（1つ上のレベル）に集計します。

「再計算」は追加項目（計算項目）の計算内容を各次元の項目ごとに再計算します。

例えば、利益率のような率を計算する式の入った追加項目の値は、親に集計（加算）しても正しい値になりません。こういう場合は、「再計算」を指定します。

「再計算」は追加項目以外では指定できません。また、再計算項目の式には四則演算と特定の関数のみ使用可能で、再計算式中で使用する項目も数値次元項目に設定する必要があります。

例えば、追加項目「利益率」を以下のように設定したとします。

$$[\text{利益率}] = ([\text{粗利益}] \times 100.0) / [\text{売上金額}]$$

この場合、「粗利益」および「売上金額」も数値次元項目に設定しなければなりません。

- 再計算に使用可能な関数

@DIMREF

@DIMRETIO

@IF

@CASE

@MOD

@INT

@ROUND

@ROUNDUP

@ROUNDDOWN

2.4 検索条件の設定

[検索条件] タブで、キューブ作成に使用するデータを絞り込むための検索条件を設定することができます。検索条件の設定方法については、『ユーザーズマニュアル 第3章 2.3 定義設定画面』を参照して下さい。

2.5 多次元専用関数について

- @DIMREF 関数

@DIMREF 関数は、前年値を求めるために使用します。

前年の売上金額を出すには次のように計算式に記述します。

```
@DIMREF([売上金額], <年度>, 1, 1)
```

2番目の引数は年度次元名で<>で囲んで指定します。

3番目と4番目の引数は共に1を指定してください。(将来の機能拡張用です)

- @DIMRETIO 関数

@DIMRETIO 関数は、前年度比を計算します。

売上金額の前年度比を出すには次のように計算式に記述します。

```
@DIMRETIO([売上金額], <年度>, 1, 1)
```



@DIMREF 関数と @DIMRETIO 関数は再計算項目のみに使用可能です。
加算項目や検索条件には使用できません。

- @DIMDATE 関数

@DIMDATE 関数は、日付項目から、時間軸項目となる [年度] ・ [半期] などの追加項目を作成するために使用します。

売上年月項目から [年度] 項目を作成するには、次のように式に記述します。

```
@DIMDATE([売上年月], "YYYYMM", 4, 1, "YY 年度")
```

1番目の引数には、変換元の日付項目を指定します。

2番目の引数には、1番目の引数の形式を指定します。

3番目・4番目の引数には、年度の開始月・開始日を指定します。

5番目の引数には、変換後のデータ形式を指定します。Yは年度、Tは半期、Qは四半期、Mは月、Wは週、Dは日を表します。

以下の書式指定文字列は対応する数字(又は漢字)に変換され、他の文字はそのまま出力されます。また、「」(アポストロフィ)で囲った文字列はそのまま出力されます。

指定文字列	データ形式	値
YY (半角・大文字)	年度	00-99
YYYY (半角・大文字)	年度	0000-9999
MM (半角・大文字)	月	1-12
DD (半角・大文字)	日	1-31
T (半角・大文字)	半期	1 or 2
T (全角・大文字)	半期	上 or 下
Q (半角・大文字)	四半期	1,2,3,4
Q (全角・大文字)	四半期	一,二,三,四
W (半角・大文字)	週 (年何週目)	1-53
w (半角・小文字)	週 (月何週目)	1-5

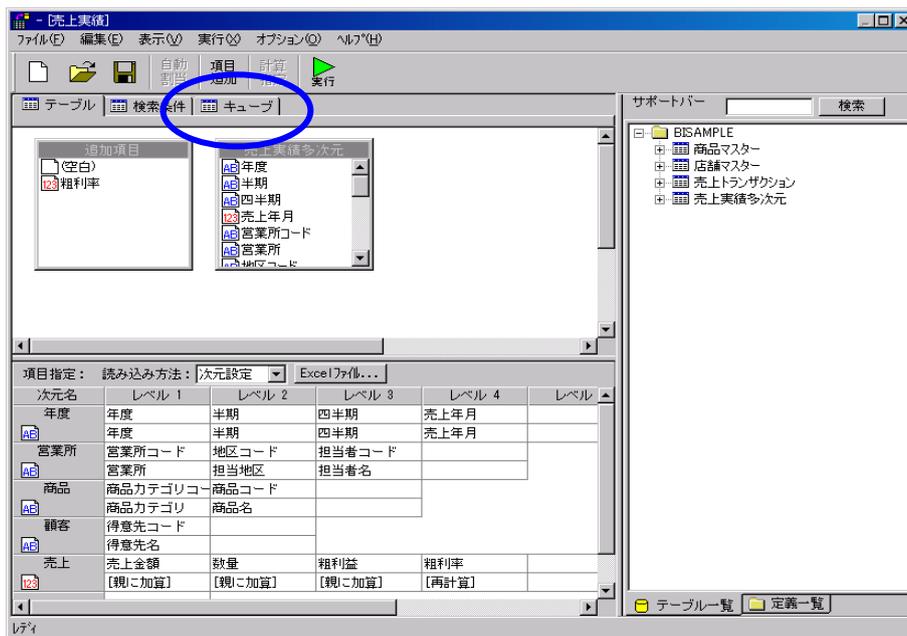


@DIMDATE 関数は他の関数の引数に指定できません。

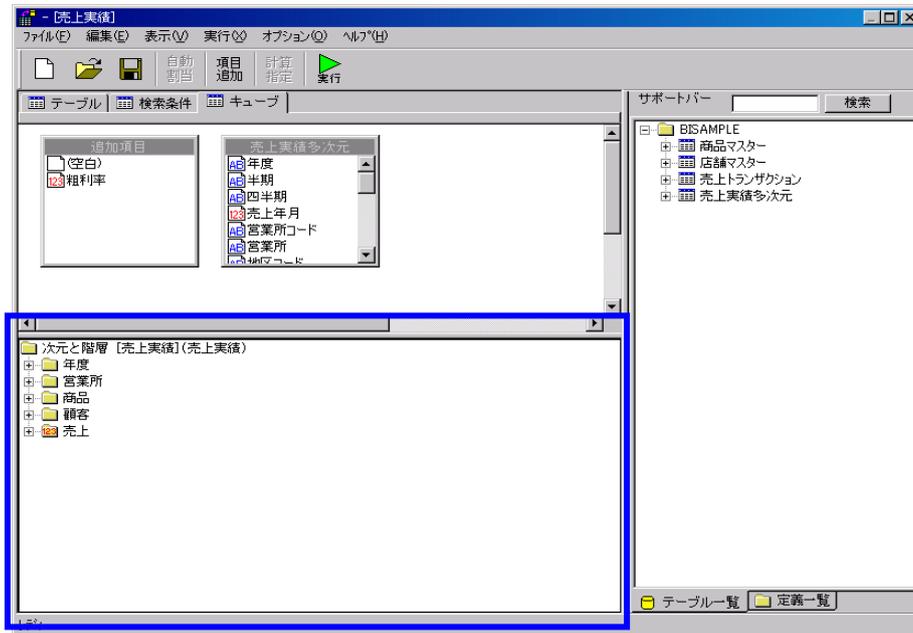
多次元専用関数以外の関数については、『ユーザーズマニュアル 付録 1 @関数リファレンス』を参照して下さい。

2.6 キューブレイアウトの編集

作成されたキューブのレイアウト (次元のツリー階層) を編集することができます。キューブレイアウトを編集するには、[キューブ]タブを選択します。

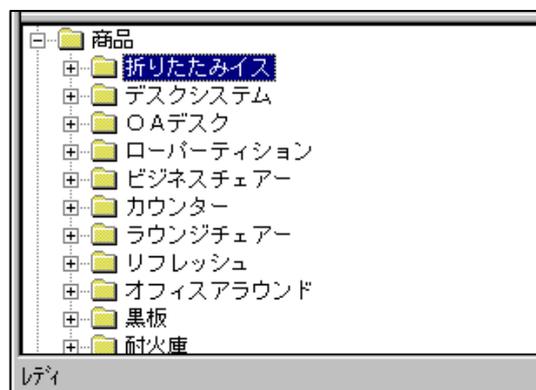
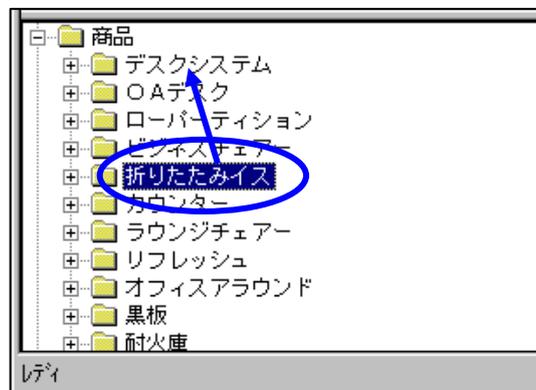


画面下部に表示されるキューブレイアウト編集域で編集を行います。ツリーを展開して、メンバーの移動・削除、表示名の変更を行うことができます。



(1) メンバーの移動

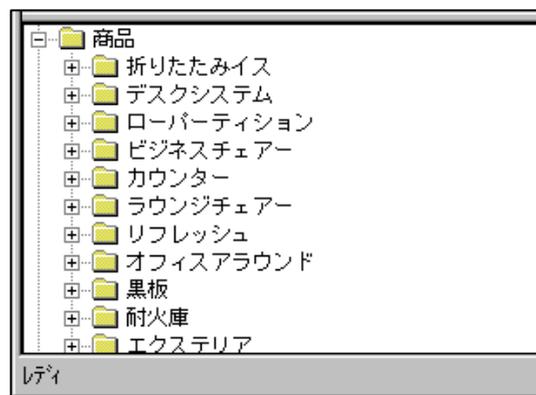
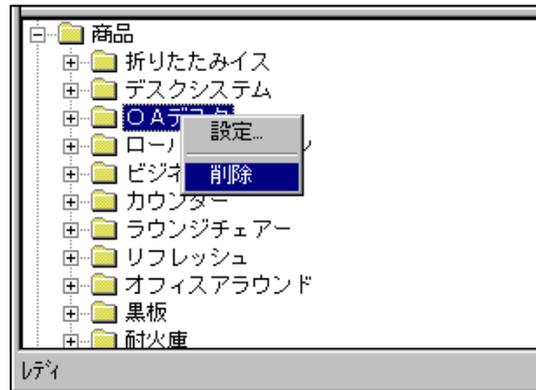
メンバーの移動（表示順の変更）を行うには、移動したいメンバードラッグし、移動先にドロップします。



メンバーの移動は兄弟間（同じ親を持つメンバー間）でのみ、可能です。また、各次元の最上位メンバーおよび数値次元項目は、移動することができません。

(2) メンバーの削除

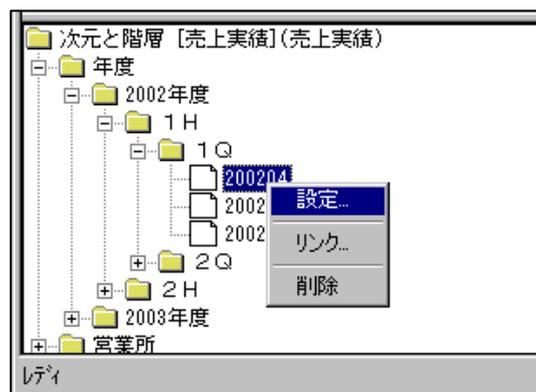
メンバーを削除するには、メンバーを選択して右クリックし、メニューから[削除]を選択します。



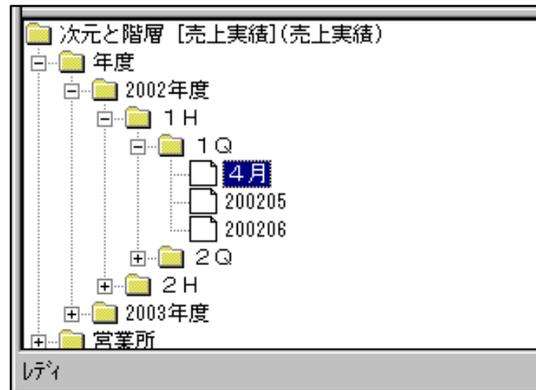
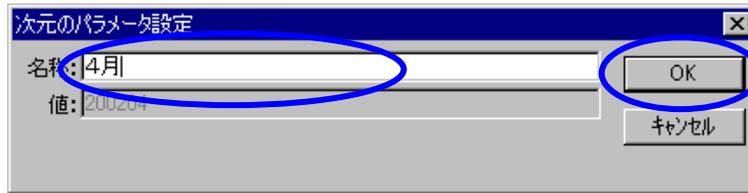
各次元の最上位メンバーおよび数値次元項目は、削除することができません。

(3) 表示名の変更

メンバーの表示名を変更するには、メンバーを選択して右クリックし、メニューから[設定]を選択します。



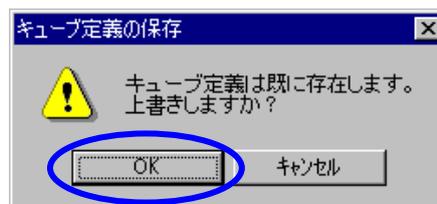
次元のパラメータ設定ダイアログで新しい名称を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



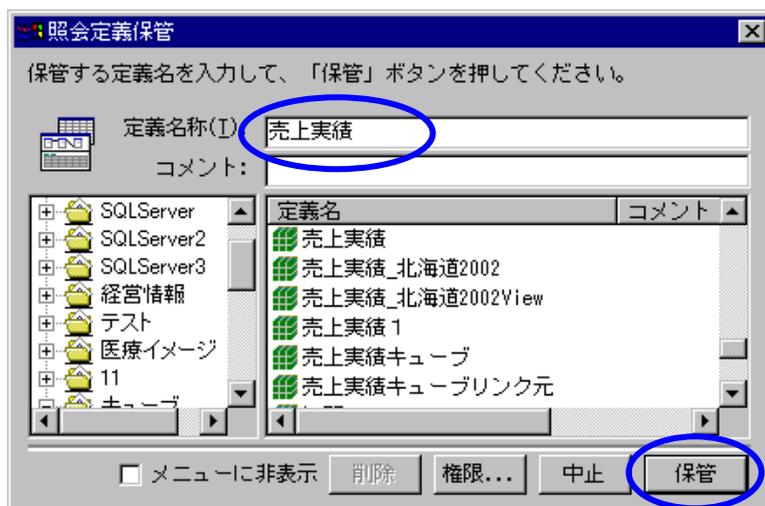
編集内容を有効にするためには、キューブレイアウトを保管する必要があります。キューブレイアウトを保管するには、メニューから[ファイル]—[保管]を選択し、多次元分析実行の設定を行います。[多次元分析実行の設定]ウィザードで、[キューブレイアウトの作成]、[ツリーの変更のみ]を選択し、[次]ボタンをクリックします。



キューブ定義の上書き確認メッセージが表示されますので、[OK]ボタンをクリックして下さい。



照会定義保管ダイアログが表示されますので、保管先を選択して[保管]ボタンをクリックして下さい。



2.7 キューブ間リンクの設定

キューブ間リンクを設定することにより、1つの概要キューブと複数の明細キューブを作成し、概要キューブから各明細キューブへドリルダウンすることが可能です。

集計結果の概要のみを含むキューブと、詳しい明細データを含む複数のキューブを作成し、概要キューブから明細キューブへドリルダウンする、といった使い方ができます。

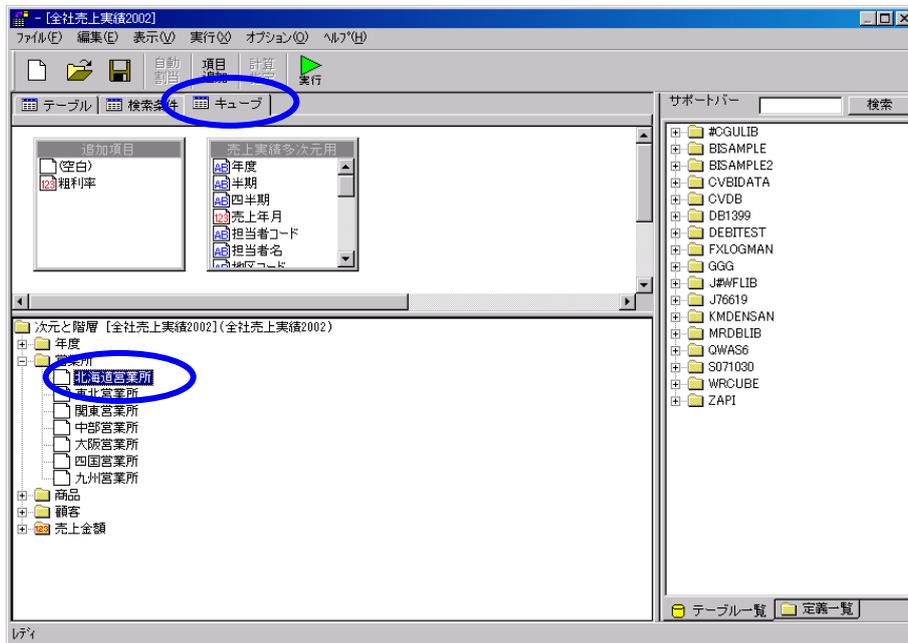
商品		顧客		
		1H	2H	2002年度
北海道営業所	売上金額	3,076,707	2,544,770	5,621,477
東北営業所	売上金額	8,247,770	7,460,380	15,708,150
関東営業所	売上金額	10,900,690	23,779,740	34,680,430
中部営業所	売上金額	7,917,087	5,785,721	13,702,808
大阪営業所	売上金額	35,757,320	6,996,520	42,753,840
四国営業所	売上金額	1,344,310	2,194,540	3,538,850
九州営業所	売上金額	17,893,150	18,040,040	35,933,190
営業所	売上金額	85,137,034	66,801,711	151,938,745

概要キューブ

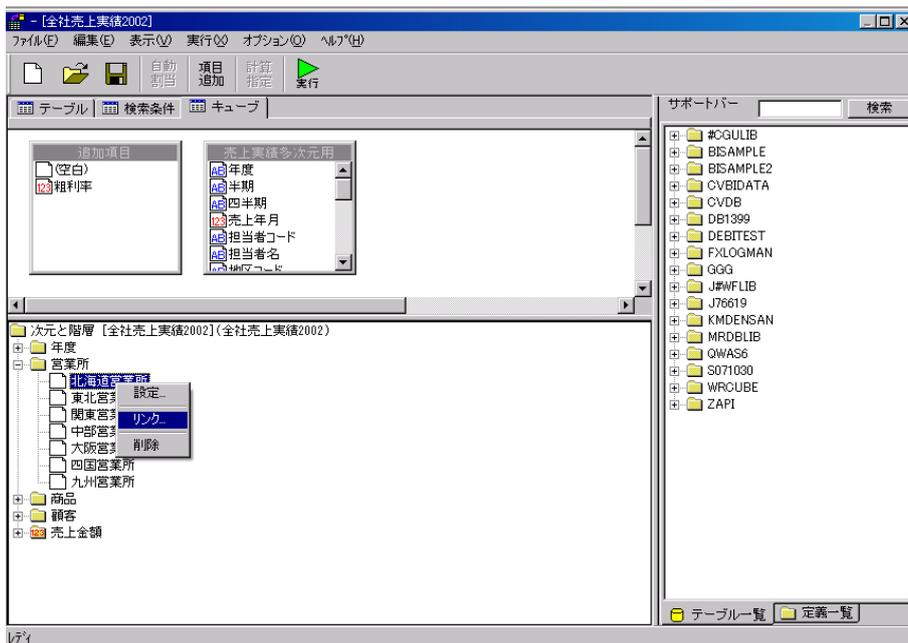
商品		顧客		
		1H	2H	2002年度
小坂律子	売上金額	3,076,707	2,544,770	5,621,477
	数量	367	137	504
	粗利益	559,737	666,392	1,226,129
	粗利率	18.19	26.19	21.81
担当者	売上金額	3,076,707	2,544,770	5,621,477
	数量	367	137	504
	粗利益	559,737	666,392	1,226,129
	粗利率	18.19	26.19	21.81

明細キューブ

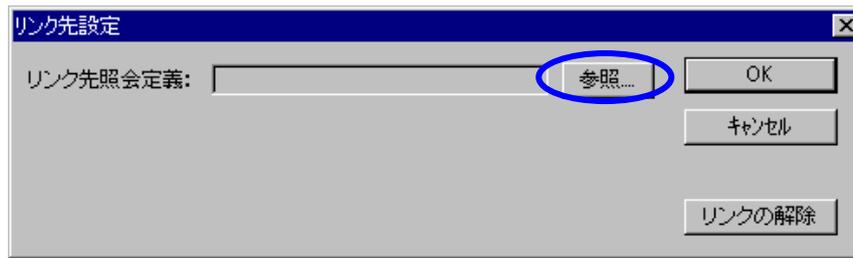
キューブ間リンクを設定するには、[キューブ]タブを選択します。ツリーを展開し、リンク元となるメンバーを表示して下さい。リンク元には、次元の末端メンバーのみ指定できます。また、数値次元項目はリンク元には指定できません。



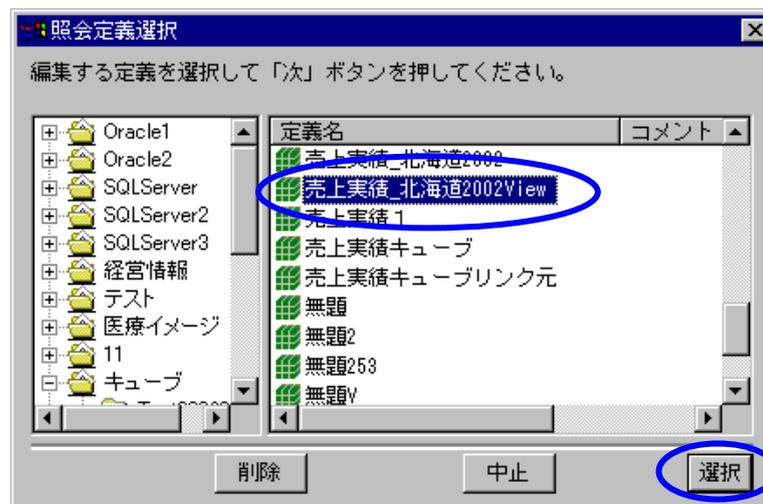
リンク元メンバーを選択して右クリックし、メニューから[リンク]を選択します。



リンク先設定ダイアログが表示されますので、[参照]ボタンをクリックして下さい。



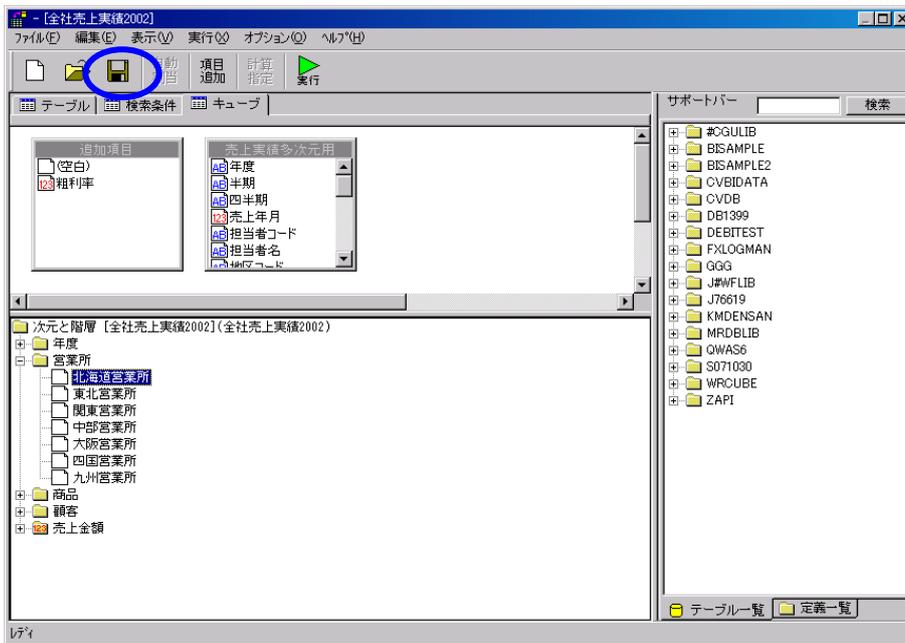
照会定義選択ダイアログが表示されます。リンク先となる多次元分析定義を選択し、[選択]ボタンをクリックして下さい。



リンク先設定ダイアログに戻りますので、[OK]ボタンをクリックして下さい。



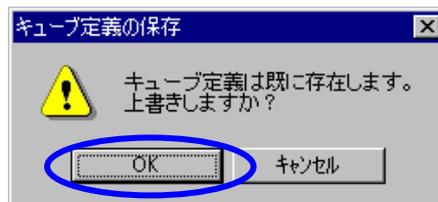
リンクを全て設定し終わったら、一旦定義を保管します。[保管]ボタンをクリックして下さい。



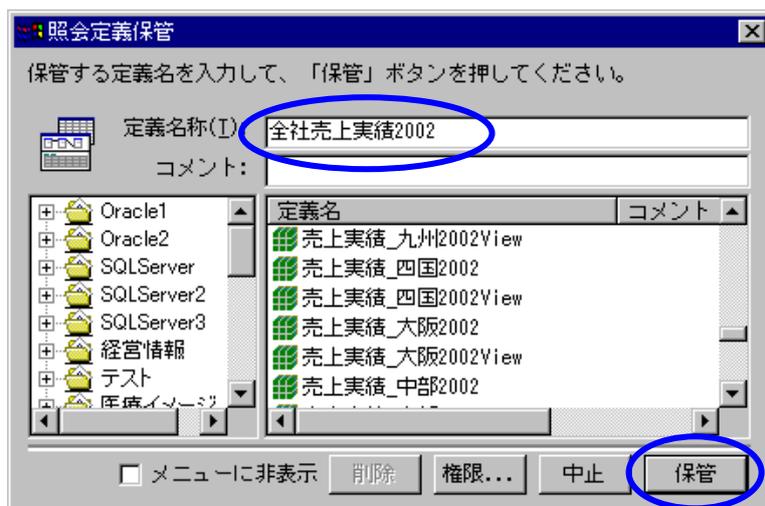
多次元分析実行の設定ダイアログが表示されます。[キューブレイアウトの作成]と[RDB データの取り込み]のチェックを外して、[次]ボタンをクリックして下さい。



キューブ定義の上書き確認メッセージが表示されますので、[OK]ボタンをクリックして下さい。



照会定義保管ダイアログが表示されますので、保管先を選択して[保管]ボタンをクリックして下さい。



2.8 ドリルスルーの設定

ドリルスルーとは分析実行時に選択したセルに対応するデータを、別の照会定義の検索条件に与えて実行する機能です。

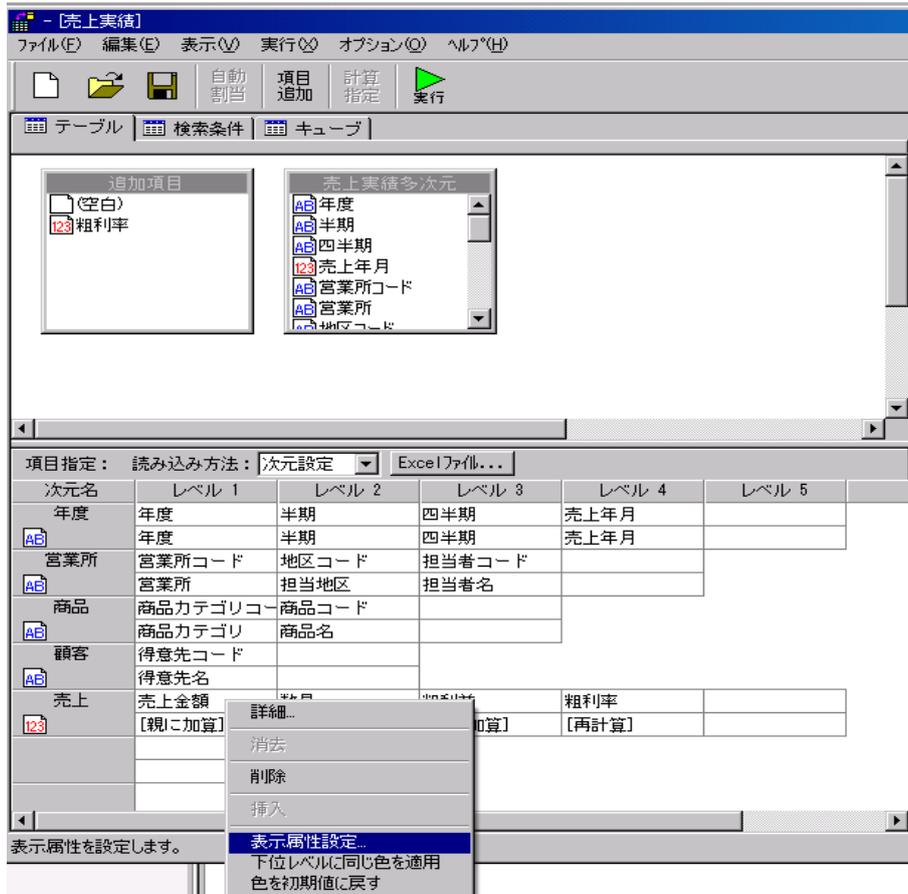
たとえば、商品カテゴリ[デスクシステム]の営業所別／四半期別の売上金額を表示しているとします。ここで[東北営業所]と[1Q]のクロスするセルをクリックすることで、商品カテゴリ[デスクシステム]、営業所[東北営業所]、四半期[1Q]の売上一覧を表示するといった使い方ができます。

顧客	デスクシステム	売上金額		
		1Q	2Q	1H
北海道営業所			3,300	3,300
東北営業所		10,080	6,720	16,800
関東営業所		22,000	33,000	55,000
中部営業所			27,000	27,000
大阪営業所		20,160		20,160
四国営業所				
九州営業所				
営業所		52,240	70,020	122,260

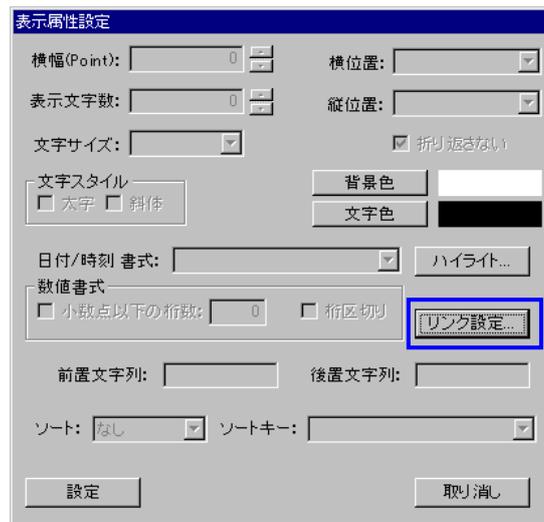
年度	半期	四半期	売上年月	営業所	担当者名	担当地区	商品カテゴリ	商品名	得意先名	数量	売上金額	粗利益
2002年度	1H	1Q	200204	東北営業所	佐藤佑子	宮城県	デスクシステム	ワゴン	株式会社植木開発工業	1	3360	24
2002年度	1H	1Q	200205	東北営業所	佐藤佑子	宮城県	デスクシステム	ワゴン	株式会社植木開発工業	1	3360	24
2002年度	1H	1Q	200206	東北営業所	佐藤佑子	宮城県	デスクシステム	ワゴン	株式会社植木開発工業	1	3360	24

ドリルスルー設定は、標準表形式のリンク設定と同様に、表示属性設定の「リンク設定」ボタンで行います。

1. リンク元となる数値次元項目を右クリックし、メニューから[表示属性設定]を選択します。



2. 表示属性設定ダイアログから、[リンク設定]ボタンをクリックします。



3. リンク先設定ダイアログから、[参照]ボタンをクリックし、ドリルスルー先照会定義を選択します。ドリルスルー先照会定義を選択後、[OK]ボタンをクリックします。



注意

ドリルスルー先照会定義にはキューブ作成に用いたものと同じテーブルを含め、項目指定域にはキューブのレベル項目に設定した項目を含める必要があります。ドリルスルー先照会定義の項目指定域にない項目は検索条件から除外されます。



注意

ドリルスルー先に@INPUT 関数を使用する照会定義を設定することは出来ません。



注意

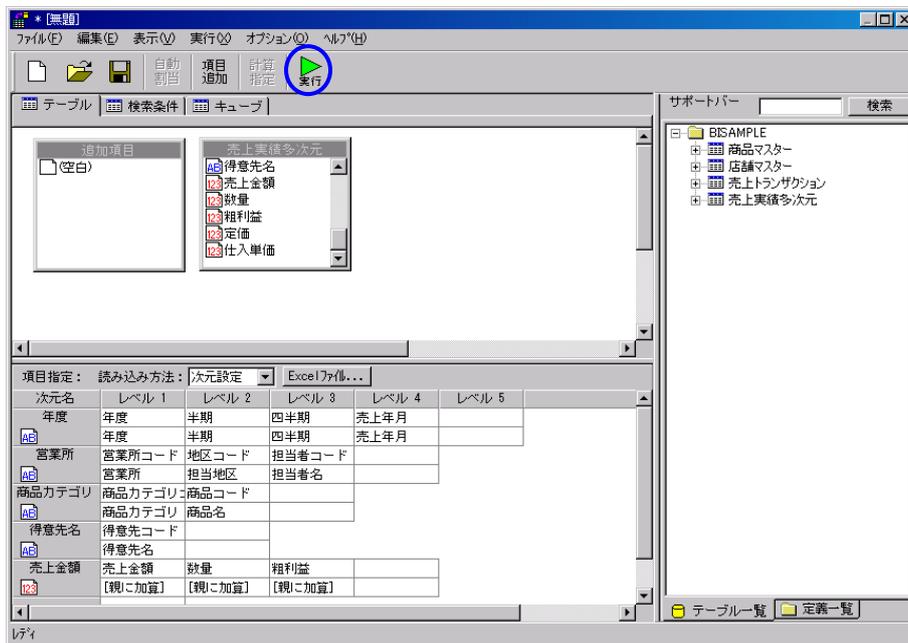
レベル項目に@DIMDATE 等の多次元専用関数を使用した場合、ドリルスルー出来ません。

3 キューブ作成の実行

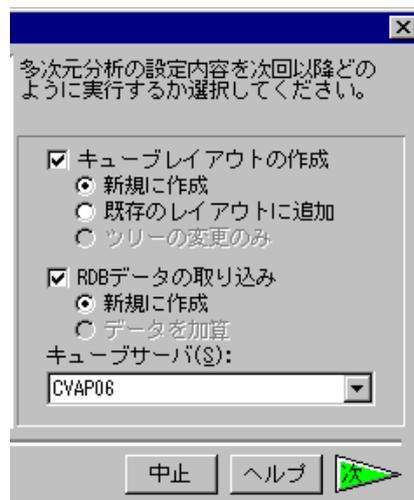
この節では、キューブ作成の実行方法について説明します。

3.1 キューブ作成ウィザード

1. キューブ作成ウィザードを表示するためには、定義設計の画面で [実行] ボタンをクリックします。



2. 多次元分析実行の設定を行います。



- キューブレイアウトの作成

多次元のレイアウト（ツリー階層）を作成する場合、チェックを付けます。新規のキューブを作成する場合は、必ずチェックが付きます。チェックを付けると、レイアウトの作成方法として、[新規に作成]、[既存のレイアウトに追加]、[ツリーの変更のみ]が選択できます。

[新規に作成]を選択すると、現在のキューブレイアウトを破棄して新たに作成します。新規のキューブを作成する場合は、必ずチェックが付きます。

[既存のレイアウトに追加]を選択すると、現在のレイアウトに対して変わった部分を追加します。毎日や毎月など定期的にキューブを更新していく場合に選択します。

[ツリーの変更のみ]は、[キューブタブ]でツリーを編集した場合に使用します。

- RDB データの取り込み

レイアウトに対応するデータをリレーショナル・データベースから読み込むときにチェックを付けます。

チェックを付けると、データの保存の方法として、[新規に作成]と[データを加算]が選択できます。

[新規に作成]を選択すると、現在のキューブレイアウトに対してデータを読み直します。

[データを加算]を選択すると、現在のデータに加算していきます。毎日や毎月など定期的にキューブを更新していく場合に選択します。

- キューブサーバ

キューブの保存先のキューブサーバを選択します。

3. 保管先を選択し、キューブ名を設定します。キューブメニュー・キューブフォルダーを選択し、キューブ名を入力します。



4. 照会定義を保管します。ここで設定した定義名称が、Web 照会画面のメニューに表示されます。



5. キューブ作成のスケジュールを設定します。

- 即時実行
ただちにキューブを作成します。
- 時間指定実行
キューブを作成する日時を指定します。



6. [即時実行]を選択して[実行]をクリックすると、データが読みまれ、キューブが作成されます。



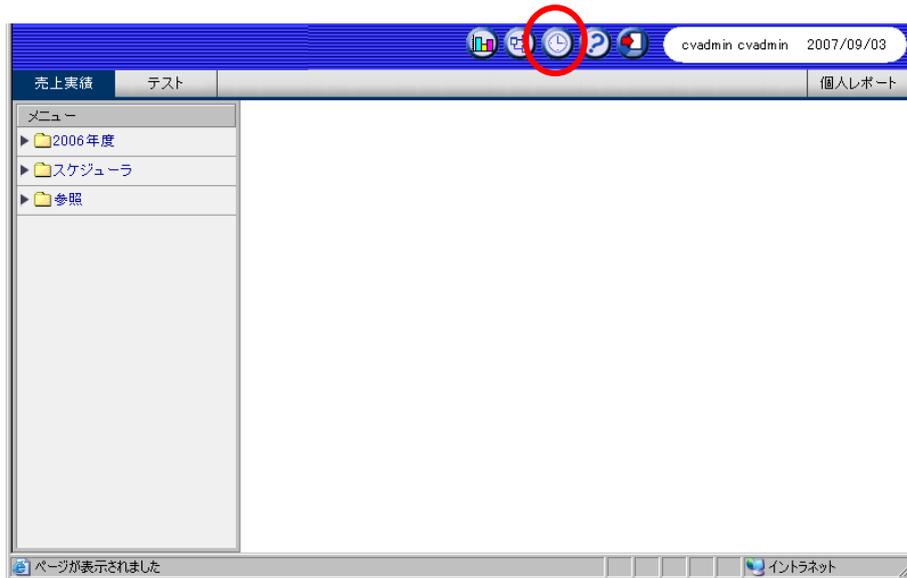
7. [時間指定実行]を選択すると、キューブを作成するスケジュールを設定できます。



- 1回
指定した日時に、1回だけ実行します。
- 毎時
毎時、指定した分に実行します。
- 毎日
毎日または毎週指定した曜日の、指定した時刻に実行します。
- 毎月
毎月、指定した日時に実行します。31日など、指定した日がない月の場合には、月の最終日に実行されます。

3.2 実行スケジュールの確認

スケジュールの一覧を確認するには cvadmin ユーザーで WebReport にログインし、スケジューラ・モニター・アイコンをクリックします。



スケジュール名	次回予定日時	前回開始日時	前回終了日時	前回結果	コメント
売上実績2	8月24日12時40分	2007/08/24 12:40	2007/08/24 12:40	正常終了	
売上実績3	毎月31日14時40分	2007/09/30 14:40	2007/08/31 14:40	正常終了	
売上実績4	毎月30日10時15分	2007/09/30 10:15	2007/08/31 14:40	正常終了	
売上実績	毎日毎時30分	2007/09/03 15:30	2007/09/03 14:30	正常終了	

スケジュールの一覧が表示されます。左端の信号のアイコンはスケジュールの状態を表します。

- 待機状態…指定した時刻が来ると実行されます。
- 実行状態…現在実行中のスケジュールです。
- 終了状態…1回のみ実行のスケジュールで終了後のものです。

スケジュールラ・モニター画面から、スケジュールの変更/削除/即時実行/ログの表示が可能です。

第 4 章

分析編

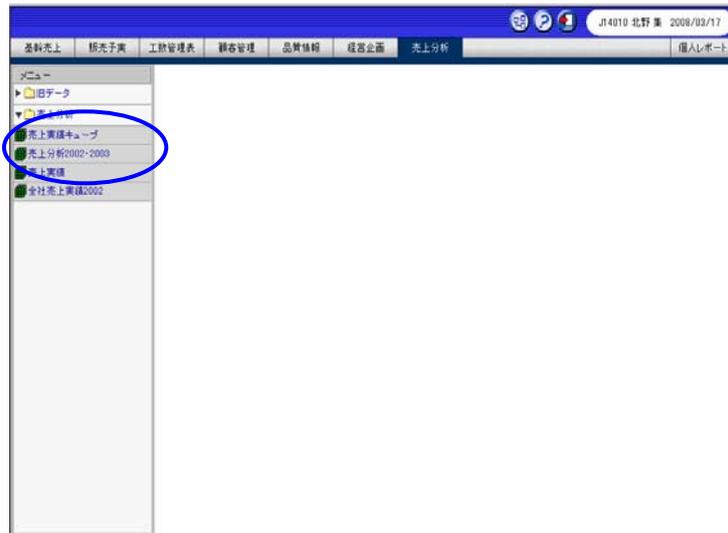
目次

1	多次元分析の実行	57
2	キューブの操作	58
2.1	ドリルダウン	58
2.2	ドリルアップ	59
2.3	スライス&ダイス	60
2.4	メンバーの入れ替え	64
3	その他の機能	65
3.1	分析保存	65
3.2	エクスポート	67
3.3	グラフの表示	69
3.4	多次元オプション	71

1 多次元分析の実行

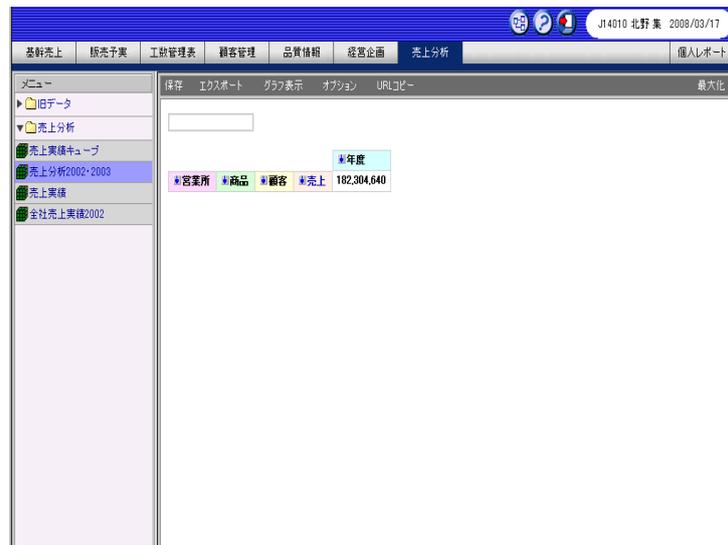
ここでは、多次元分析の実行方法について説明します。

1. Web 照会画面のサブメニューから、実行したいキューブ分析定義を選択します。



Web 照会画面

2. 多次元で集計された結果が表示されます。



多次元分析画面

2 キューブの操作

ここでは、多次元分析画面でキューブに対して行うことのできる操作について説明します。

2.1 ドリルダウン

メンバーの左側に表示されている下向き矢印をマウスでクリックすると、1つ下のレベルが展開されます。

1. [営業所] の下向き矢印をクリックします。

保存 エクスポート グラフ表示 オプション URLコピー					
[検索ボックス]					
				1	
				↓年度	
1	↓営業所	↓商品	↓顧客	↓売上	182,304,640

2. 1つ下のレベルにドリルダウンします。

保存 エクスポート グラフ表示 オプション URLコピー					
[検索ボックス]					
				1	
				↓年度	
1	↓北海道営業所 ↑	↓商品	↓顧客	↓売上	7,018,382
2	↓東北営業所 ↑	↓商品	↓顧客	↓売上	19,436,930
3	↓関東営業所 ↑	↓商品	↓顧客	↓売上	41,557,350
4	↓中部営業所 ↑	↓商品	↓顧客	↓売上	16,505,478
5	↓大阪営業所 ↑	↓商品	↓顧客	↓売上	51,047,980
6	↓四国営業所 ↑	↓商品	↓顧客	↓売上	4,548,900
7	↓九州営業所 ↑	↓商品	↓顧客	↓売上	42,189,620
8	↓営業所	↓商品	↓顧客	↓売上	182,304,640

ドリルダウンは通常、そのメンバーと子メンバーのみを残して表示されます。現在表示されているその他のメンバーを残したまま子メンバーを展開したい場合は、[Ctrl]キーを押したままドリルダウンします。また、自分自身を残さない場合には、[Alt]キーを押したままドリルダウンします。



ドリルダウンで展開できるセル数には、制限があります。行方向には1000件、列方向には100件まで表示することができます。また、表示する総セル数が多いと、結果がブラウザに表示されるまでに時間がかかる場合があります。ご注意ください。

2.2 ドリルアップ

メンバーの右側に表示されている上向き矢印をマウスでクリックすると、1つ上のレベルが表示されます。

1. [北海道営業所]の上向き矢印をクリックします。

					1
					年度
1	北海道営業所 ↑	商品	顧客	売上	7,018,382
2	東北営業所 ↑	商品	顧客	売上	19,436,930
3	関東営業所 ↑	商品	顧客	売上	41,557,350
4	中部営業所 ↑	商品	顧客	売上	16,505,478
5	大阪営業所 ↑	商品	顧客	売上	51,047,980
6	四国営業所 ↑	商品	顧客	売上	4,548,900
7	九州営業所 ↑	商品	顧客	売上	42,189,620
8	営業所	商品	顧客	売上	182,304,640

2. 1つ上のレベルにドリルアップします。

					1
					年度
1	営業所	商品	顧客	売上	182,304,640

2.3 スライス&ダイス

メンバーをマウスでドラッグ&ドロップすると、列エッジ・行エッジ・ページエッジの各エッジ間で、次元の位置を移動できます。

	1	2	3
商品			
2002年度		2003年度	年度
1 北海道営業所	5,614,195	1,404,187	7,018,382
2 東北営業所	15,708,150	3,728,780	19,436,930
3 関東営業所	34,680,430	6,876,920	41,557,350
4 中部営業所	13,702,808	2,802,670	16,505,478
5 大阪営業所	42,753,840	8,294,140	51,047,980
6 四国営業所	3,538,850	1,010,050	4,548,900
7 九州営業所	35,933,190	6,256,430	42,189,620
8 営業所	151,931,463	30,373,177	182,304,640

○ダイス

1. 「営業所」を行エッジ（左）からドラッグし、「年度」の上にドロップします。

	年度	営業所
北海道営業所	7,018,382	
東北営業所	19,436,930	
関東営業所	41,557,350	
中部営業所	16,505,478	
大阪営業所	51,047,980	
四国営業所	4,548,900	
九州営業所	42,189,620	
営業所	182,304,640	

2. [営業所] 次元が行エッジ（左）から列エッジ（上）に移動します。

	1	2	3	4	5
北海道営業所					
東北営業所					
関東営業所					
中部営業所					
大阪営業所					
年度					
商品	7,018,382	19,436,930	41,557,350	16,505,478	51,047,980

○スライス

1. [売上] を行エッジ（左）からドラッグし、ページエッジの上にドロップします。

	1	2	3	4	5
北海道営業所					
東北営業所					
関東営業所					
中部営業所					
大阪営業所					
年度					
商品	7,018,382	19,436,930	41,557,350	16,505,478	51,047,980

2. [売上] 次元が行エッジ（左）からページエッジに移動します。

		1	2	3	4	5	6
		北海道営業所	東北営業所	関東営業所	中部営業所	大阪営業所	四国
		年度	年度	年度	年度	年度	年度
1	商品 顧客	7,018,382	19,436,930	41,557,350	16,505,478	51,047,980	4,...

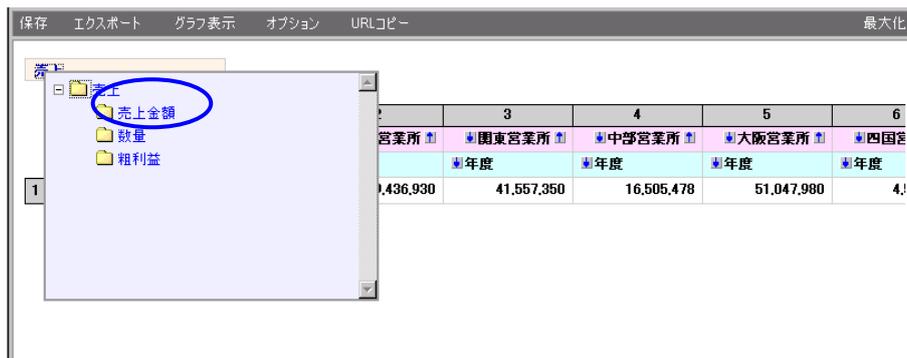
3. [売上] をクリックします。スライスウィンドウが表示されます。

1							
2							
3							
4							
5							
6							
7	九州営業所	商品	顧客	42,189,620			
8	営業所	商品	顧客	182,304,640			

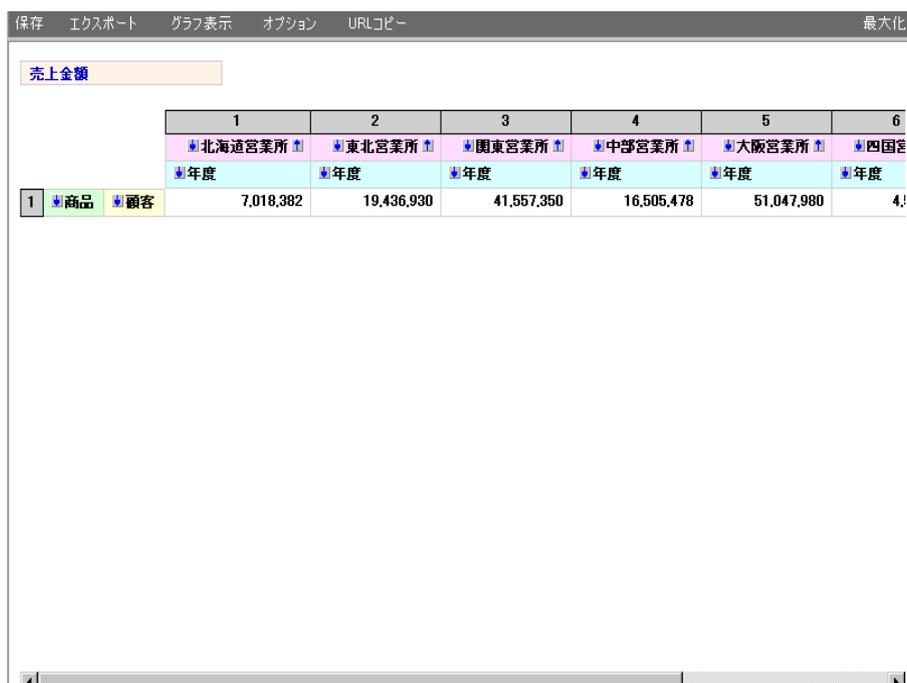


スライスウィンドウには、最大で 1000 項目までしか表示されません。

4. スライスウィンドウのツリーから、[売上金額] を選択します。



5. [売上金額] でスライスされた結果が表示されます。



2.4 メンバーの入れ替え

同じ親を持つメンバー同士は、ドラッグ&ドロップ操作で順序を入れ替えることができます。

1. [関東営業所] をドラッグし、[北海道営業所] の上にドロップします。

				1
				年度
1	北海道営業所	商品	顧客	7,018,382
2	東北営業所	商品	顧客	19,436,930
3	関東営業所	商品	顧客	41,557,350
4	中部営業所	商品	顧客	16,505,478
5	大阪営業所	商品	顧客	51,047,980
6	四国営業所	商品	顧客	4,548,900
7	九州営業所	商品	顧客	42,189,620
8	営業所	商品	顧客	182,304,640

2. [関東営業所] が [北海道営業所] の前に挿入されます。

				1
				年度
1	関東営業所	商品	顧客	41,557,350
2	北海道営業所	商品	顧客	7,018,382
3	東北営業所	商品	顧客	19,436,930
4	中部営業所	商品	顧客	16,505,478
5	大阪営業所	商品	顧客	51,047,980
6	四国営業所	商品	顧客	4,548,900
7	九州営業所	商品	顧客	42,189,620
8	営業所	商品	顧客	182,304,640

3 その他の機能

ここでは、その他の機能について説明します。

3.1 分析保存

キューブ分析の途中で、分析状態をキューブ分析定義として保存することができます。保存した分析定義をメニューから実行することにより、保存した状態から分析の続きを行うことができます。

分析保存は分析結果の保存ではなく、分析状態の保存です。分析定義保存後、キューブ自体が更新された場合には、保存した分析定義を実行すると、現在のキューブのデータが表示されます。

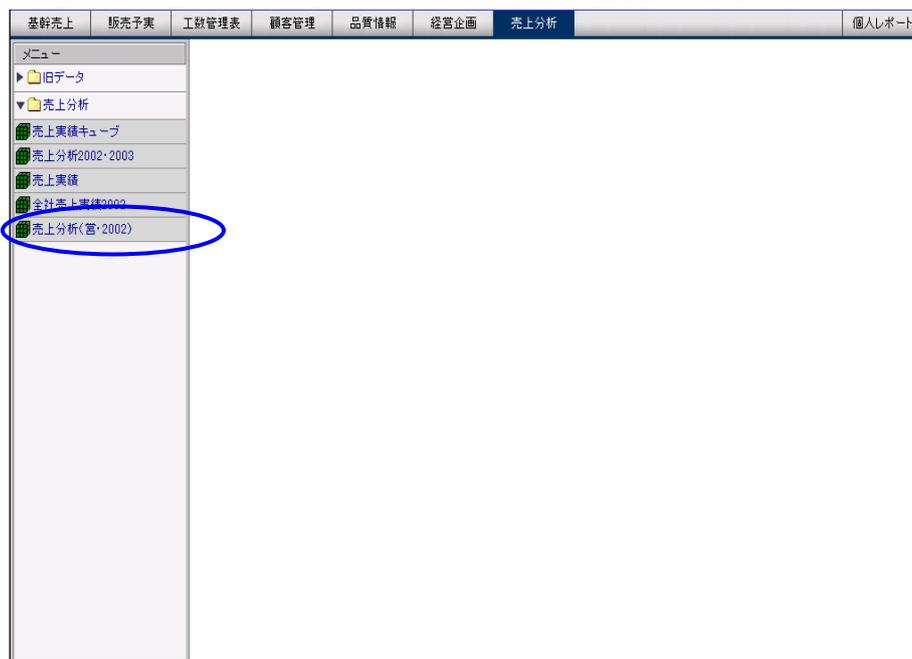
1. 分析途中で状態を保存するには、[保存] ボタンをクリックします。

商品	顧客			売上
	1	2	3	
	1H	2H	2002年度	
1 関東営業所	10,900,690	23,779,740	34,680,430	
2 北海道営業所	3,069,425	2,544,770	5,614,195	
3 東北営業所	8,247,770	7,460,380	15,708,150	
4 中部営業所	7,917,087	5,785,721	13,702,808	
5 大阪営業所	35,757,320	6,996,520	42,753,840	
6 四国営業所	1,344,310	2,194,540	3,538,850	
7 九州営業所	17,893,150	18,040,040	35,933,190	
8 営業所	85,129,752	66,801,711	151,931,463	

2. 定義保存ダイアログが表示されます。定義名・コメントを入力し、「保存」ボタンをクリックします。



3. 分析再開時は、サブメニューから保存した分析定義を選択します。(保存後すぐに実行するには、「売上分析」メニューをクリックしてメニューを更新する必要があります。)



4. 保存時の状態から分析が再開されます。

商品	顧客	売上		
		1	2	3
		1H	2H	2002年度
1	関東営業所	10,900,690	23,779,740	34,680,430
2	北海道営業所	3,069,425	2,544,770	5,614,195
3	東北営業所	8,247,770	7,460,380	15,708,150
4	中部営業所	7,917,087	5,785,721	13,702,808
5	大阪営業所	35,757,320	6,996,520	42,753,840
6	四国営業所	1,344,310	2,194,540	3,538,850
7	九州営業所	17,893,150	18,040,040	35,933,190
8	営業所	85,129,752	66,801,711	151,931,463



分析定義の対象キューブが削除された場合、または対象キューブの次元設定が変更された場合、保存した分析定義は実行できません。ご注意ください

3.2 エクスポート

分析結果を Excel (XLS) 型式 CSV 型式や SYLK 型式でクライアント PC に書き出すことができます。書き出したデータは、Excel など CSV/SYLK 型式を読み込めるアプリケーションで表示／編集することができます。

1. [エクスポート] ボタンをクリックします。

顧客	商品	売上	
		2002年度	年度
営業所	デスクシステム	1,046,980	1,046,980
	OAデスク	628,250	628,250
	ローパーティション	160,800	160,800
	ビジネスチェア	3,795,750	3,795,750
	折りたたみイス	56,100	56,100
	カウンター	203,200	203,200
	ラウンジチェア	94,200	94,200
	リフレッシュ	5,214,750	5,214,750
	オフィスをアラウンド	22,698,252	22,698,252
	黒板	3,600,350	3,600,350
	耐火庫	2,292,000	2,292,000
	エクステリア	11,894,770	11,894,770
	用途別家具	4,658,910	4,658,910
	OA機器	1,038,575	1,038,575
	OAサブライ	24,438,937	24,438,937
	ファイル	4,847,465	4,847,465
	事務用品	57,523,793	57,523,793
	ビジネスバッグ	942,000	942,000
	設計製図機器	6,796,381	6,796,381
	商品	151,931,463	151,931,463

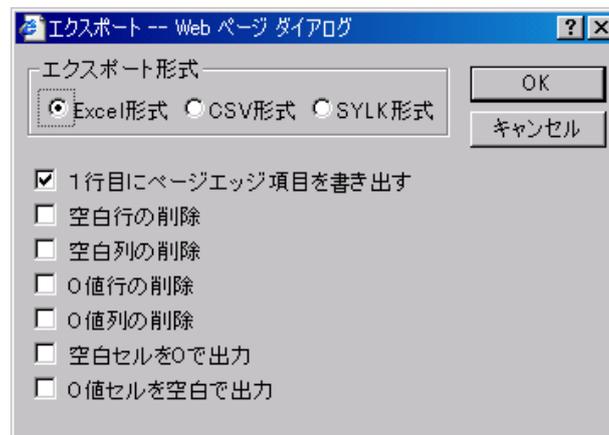
2. エクスポートダイアログが表示されます。エクスポート型式を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

エクスポート型式：「EXCEL 形式」を選択すると、Excel ファイル (.xls) 形式でデータを書き出します。（「1 行目にページエッジ項目を書き出す」チェックボックスは、あらかじめキューブ設計者が書き出すファイルをサーバーに登録している場合、選択できません。）

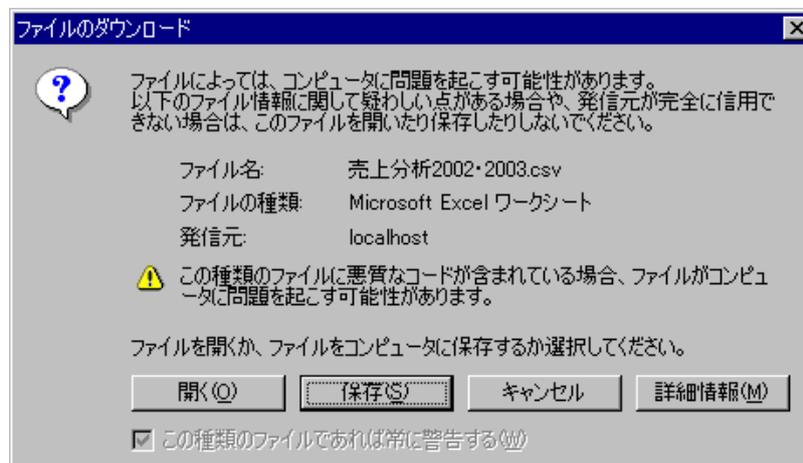
「CSV 形式」を選択すると、カンマ区切りテキストで書き出します。

「SYLK 形式」を選択すると EXCEL で読み込んだ時に 0 で始まる数字を正しく読み込める形式で書き出します。

1 行目にページエッジ項目を書き出す：チェックマークを付けると、ページエッジ上の項目を書き出します。



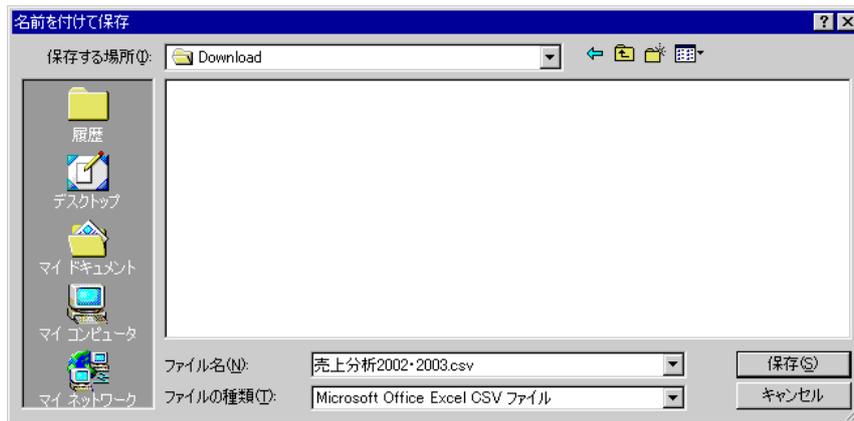
3. ファイルのダウンロードダイアログが表示されます。[保存] ボタンをクリックします。



ファイルのダウンロードダイアログ

ファイルの保存画面が表示されます。

4. 保存する場所を選択してファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックします。



ファイルの保存

XLS または CSV、SYLK 形式でデータが保存されます。



エクスポートできるデータ量には、制限があります。行方向には 16384 件、列方向には 256 件までダウンロードすることができます。

3.3 グラフの表示

1. グラフを表示するには、[グラフ表示] ボタンをクリックします。

商品		顧客		売上
		1	2	3
		1H	2H	2002年度
1	北海道営業所	3,069,425	2,544,770	5,614,195
2	東北営業所	8,247,770	7,460,380	15,708,150
3	関東営業所	10,900,690	23,779,740	34,680,430
4	中部営業所	7,917,087	5,785,721	13,702,808
5	大阪営業所	35,757,320	6,996,520	42,753,840
6	四国営業所	1,344,310	2,194,540	3,538,850
7	九州営業所	17,893,150	18,040,040	35,933,190
8	営業所	85,129,752	66,801,711	151,931,463

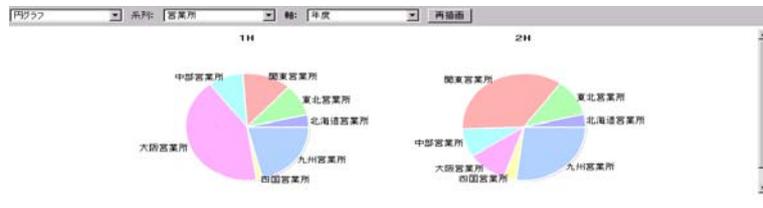
2. レポートの下にグラフが表示されます。



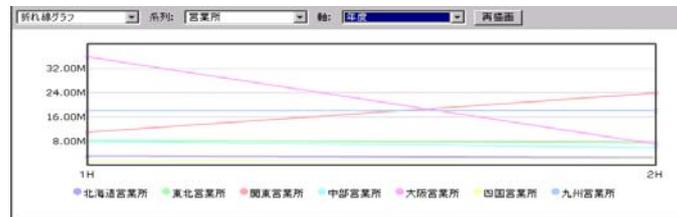
○グラフ種類

「円グラフ」、「折れ線グラフ」、「縦棒グラフ」が選択できます。

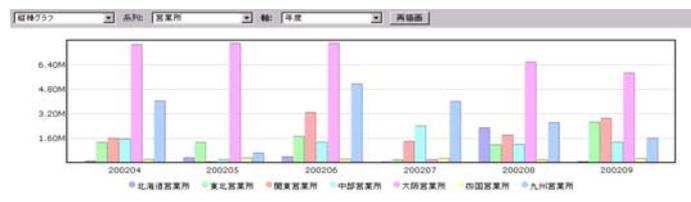
● 円グラフ



● 折れ線グラフ



● 縦棒グラフ



○系列

グラフの中に表示される次元を選択します。

円グラフの場合は、1つの円グラフの構成要素になります。

折れ線グラフの場合は線になります。

縦棒グラフの場合は、棒のかたまりの構成要素になります。

○軸

グラフの軸になる次元を選択します。

円グラフの場合は、円グラフの種類（数）になります。

折れ線グラフの場合は横軸の項目になります。

縦棒グラフの場合は横軸の項目になります。

グラフに表示される系列および軸の項目は、次元内の一番下位のレベル（階層）のメンバーが表示されます。親のレベル（階層）は分析画面で見えていてもグラフには表示されません。

また、選択していない次元については、分析画面に表示されている次元内の一番上のレベル（階層）のメンバーが使用されます。

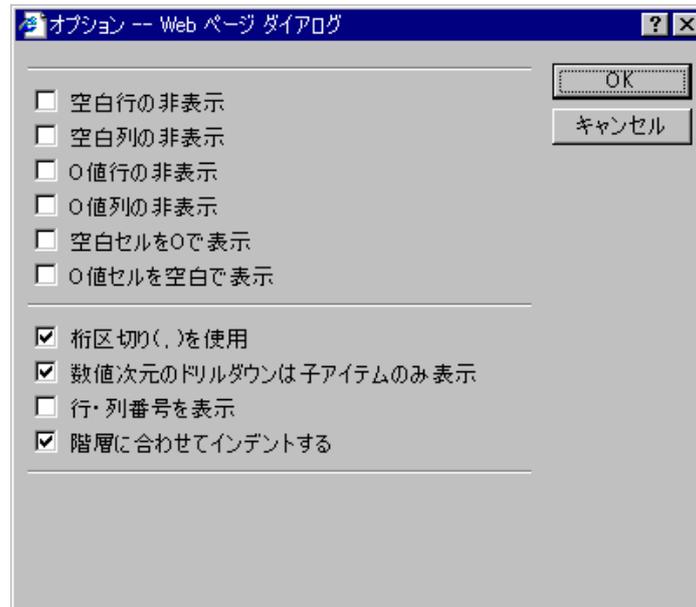
3.4 多次元オプション

多次元オプションの設定により、分析時の表示の仕方等を変更することができます。

1. 多次元オプションを設定するには、[オプション] ボタンをクリックします。

	商品	顧客			売上
		1	2	3	
		2002年度	2003年度	年度	
1	北海道営業所	5,614,195	1,404,187	7,018,382	
2	東北営業所	15,708,150	3,728,780	19,436,930	
3	関東営業所	34,680,430	6,876,920	41,557,350	
4	中部営業所	13,702,808	2,802,670	16,505,478	
5	大阪営業所	42,753,840	8,294,140	51,047,980	
6	四国営業所	3,538,850	1,010,050	4,548,900	
7	九州営業所	35,933,190	6,256,430	42,189,620	
8	営業所	151,931,463	30,373,177	182,304,640	

2. オプションダイアログが表示されます。オプションを変更して、[OK] ボタンをクリックすると、設定が反映されます。



空白行の非表示：空白（データが無い）の行を省略して表示します。下図の例だと、[アコーディオンドア] と [エンドスタンド] の行が省略されます。

空白列の非表示：空白（データが無い）の列を省略して表示します。下図の例だと、[200204] の列が省略されます。

東北営業所		顧客		売上	
	200204	200205	200206	1Q	
アーバングリーン		584,000	290,000	874,000	
アコーディオンドア					
エンドスタンド					
オフィスア라운드		584,000	290,000	874,000	

0 値行の非表示：0 値（データはあるが、値が 0）の行を省略して表示します。

0 値列の非表示：0 値（データはあるが、値が 0）の列を省略して表示します。

空白セルを 0 で表示：空白セルに 0 を表示します。

0 値セルを空白で表示：0 値のセルを空白にします。

桁区切り (,) を使用：数値データを、3 桁区切りのフォーマットで表示します。

数値次元のドリルダウンは子アイテムのみ表示：数値次元のドリルダウン時、親アイテムを表示しません。

行・列番号を表示：行番号と列番号を表示します。

保存 エクスポート グラフ表示 オプション URLコピー				
東北営業所		顧客		オフィスをラウンド
		1	2	3
		200204	200205	200206
1	売上金額		584,000	290,000
2	数量		6	3
3	粗利益		134,000	65,000

行・列番号を表示

階層に合わせてインデントする：メンバー（次元項目）を、レベルに比例した幅だけインデント（字下げ）して表示します。

保存 エクスポート グラフ表示 オプション URLコピー				
東北営業所		顧客		オフィスをラウンド
		1	2	3
		売上金額	数量	粗利益
1	200204			
2	200205	584,000	6	134,000
3	200206	290,000	3	65,000
4	1Q	874,000	9	199,000
5	2Q	870,000	9	195,000
6	1H	1,744,000	18	394,000
7	2H	2,983,000	24	568,000
8	2002年度	4,727,000	42	962,000
9	2003年度	588,000	6	138,000
10	年度	5,315,000	48	1,100,000

階層に合わせてインデント

WebReport2.0 多次元分析ガイド

2006年 5月 31日 第1版発行

2010年 9月 15日 第7版発行

発行 JB アドバンスト・テクノロジー株式会社

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目9番地C号ビル

お問い合わせ 弊社ホームページより、お問い合わせください。

<http://www.jbat.co.jp/>

本書は著作権上の保護を受けており、本書の全部あるいは一部に関して、JB アドバンスト・テクノロジー株式会社からの文書による許諾を得ず、無断で転写、複製することは禁じられています。また、本書はユーザーへ通知することなく変更される場合があります。

